

平成29年度

# 事業報告書

学校法人 比治山学園

## 目 次

I	<u>法人の概要</u>	
1	法人の目的	1
2	建学の精神・理念	1
3	設置する学校・学部・学科等	1
4	法人の沿革	2
5	法人の組織図	6
6	役員・評議員の状況	7
7	学生・生徒・園児数	9
8	教職員数	11
9	校地・校舎の状況	11
II	<u>事業の概要</u>	
1	主要事業の概要	12
2	入試（30年度入学）に関する状況	42
3	就職・進学に関する状況	44
4	施設・設備の整備に関する状況	45
III	<u>財務の概要</u>	
1	平成29年度決算の概要	47
2	財務状況の経年比較	50
	(1) 資金収支計算書の推移	50
	(2) 事業活動収支計算書の推移	51
	(3) 貸借対照表の推移	52
	(4) 財務比率の推移	53
3	寄付金の状況	55

## I 法人の概要

### 1 法人の目的

本法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、悠久不滅の生命の理想に向かって精進する豊かな愛情と科学的知性をそなえた心身共に健康な人間を育成することを目的とする。

### 2 建学の精神・理念

「～親心に応えて～ 悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」

建学の精神・理念は、広島昭和高等女学校(昭和14年設置)第三代国信玉三校長の教育理念に基づくもので、人間の生命の尊厳性と永遠性を基底として、現在を生きる私たち人間の生命は、久遠の過去から連綿と現在に至っていることに感謝し、これを未来永劫に向上発展させるべく、現在を精一杯生きるように精進する人間を育てたいという願いを表すものです。

### 3 設置する学校・学部・学科等

設置学校名	研究科・学部・学科等
比治山大学	大学院 現代文化研究科 現代文化専攻 臨床心理学専攻
	現代文化学部 言語文化学科 マスコミュニケーション学科 社会臨床心理学科 子ども発達教育学科 子ども発達教育専攻科 子ども発達教育専攻
	健康栄養学部 管理栄養学科
比治山大学短期大学部	幼児教育科 総合生活デザイン学科 美術科 専攻科 美術専攻
比治山女子高等学校	全日制課程 普通科
比治山女子中学校	
比治山大学短期大学部附属幼稚園	

## 4 法人の沿革

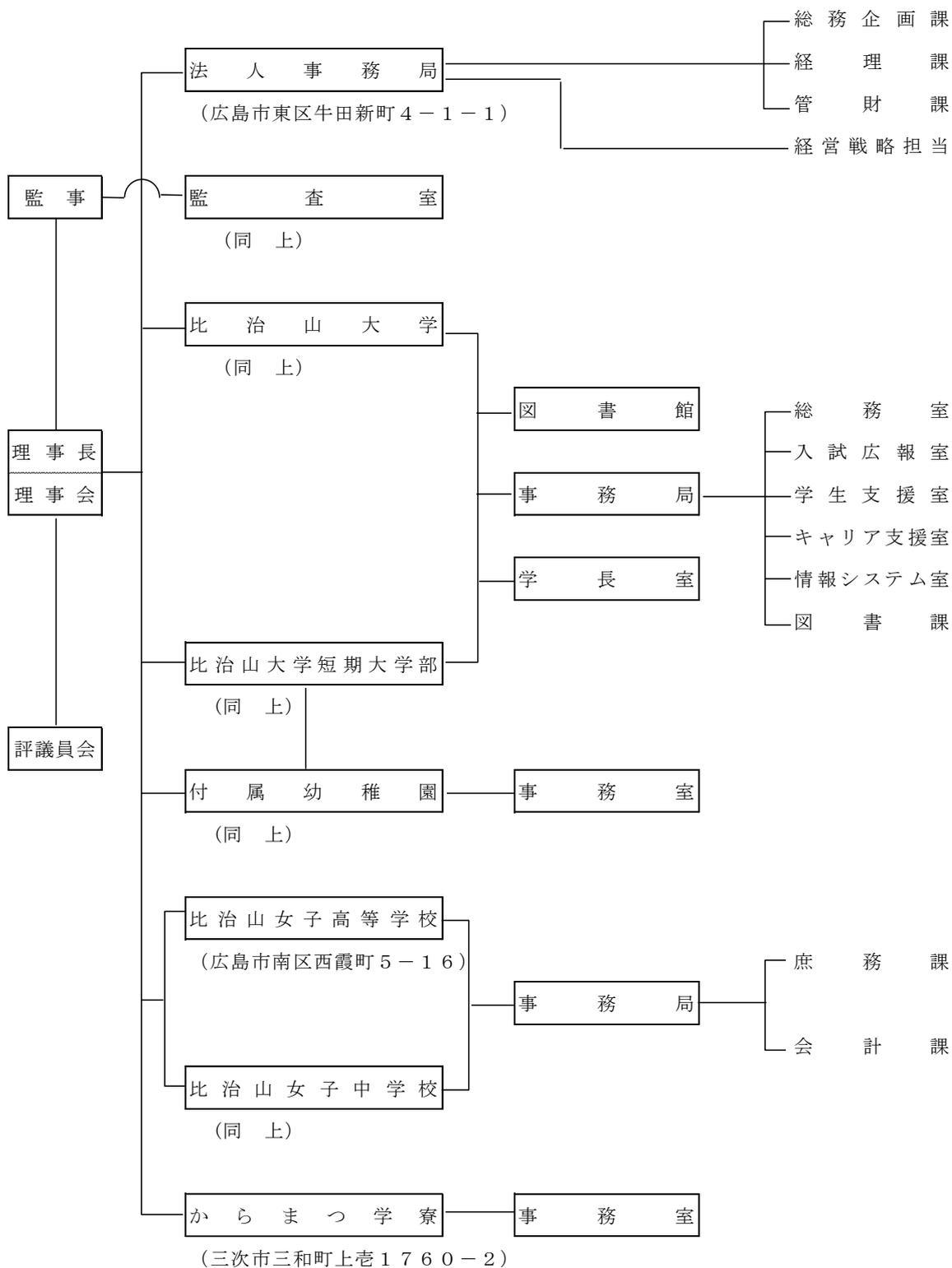
年 月 日	概 要
昭和14年 3月18日	財団法人広島昭和高等女学校設立認可
4月15日	広島文理科大学・同高等師範学校の教育実習校として広島昭和高等女学校発足
昭和16年 12月16日	財団法人広島昭和学園に改称
昭和18年 6月18日	校名を比治山高等女学校に改称
昭和22年 4月 1日	学制改革により、比治山女子中学校併設
昭和23年 5月 3日	学制改革により、比治山女子高等学校設置
昭和24年 3月31日	比治山高等女学校閉校
昭和26年 3月10日	私立学校法制定により、財団法人広島昭和学園を学校法人比治山学園に改称
昭和41年 4月 1日	比治山女子短期大学開学、国文科設置 (S41. 1. 25 認可)
昭和42年 4月 1日	比治山女子短期大学家政科・美術科設置 (S42. 1. 23 認可)
昭和43年 4月 1日	比治山女子短期大学付属幼稚園開園 (S42. 12. 13 認可) 比治山女子短期大学学生入学定員 (家政科100) 変更 (S42. 12. 28 届出受理)
昭和45年 4月 1日	比治山女子短期大学幼児教育科設置 (S45. 1. 21 認可)
昭和49年 1月 8日	衣料管理士養成大学として認可
4月 1日	比治山女子短期大学家政科専攻課程 (家政専攻・被服専攻) 設置 (S49. 1. 23 設置受理)
7月 1日	広島県双三郡三和町上壱に「からまつ学寮」開設
昭和51年 4月 1日	比治山女子短期大学学生入学定員変更 (S50. 12. 3 届出受理) (国文科150, 幼児教育科80, 家政科家政専攻120)
昭和53年 3月 9日	比治山女子短期大学幼児教育科が保母養成施設として指定
昭和57年 4月 1日	比治山女子短期大学女性文化研究センター設立
昭和60年 4月 1日	比治山女子短期大学学生入学定員変更 (S59. 12. 22 届出受理) (国文科200, 幼児教育科100, 美術科70) 比治山女子短期大学専攻科 (国文専攻10, 幼児教育専攻10) 設置 (S59. 12. 27 届出受理)
昭和62年 12月17日	レクリエーション指導者養成大学として認定
平成 3年 4月 1日	比治山女子短期大学 期間を付した入学定員の増加 (国文科30, 家政科家政専攻35・同被服専攻5, 美術科20) (H2. 12. 21 認可)
平成 6年 4月 1日	比治山大学開学、現代文化学部設置 (H5. 12. 21 認可) (言語文化学科 日本語文化専攻75・英語文化専攻35, コミュニケーション学科80) 比治山女子短期大学家政科 (家政専攻・被服専攻) を生活学科 (生活科学専攻・生活文化専攻) に名称変更 (H5. 8. 6 認可)

年 月 日	概 要
平成 6 年 4 月 1 日	比治山女子短期大学国文科学学生募集停止
平成 8 年 3 月 3 1 日	比治山女子短期大学専攻科国文専攻廃止
7 月 3 1 日	比治山女子短期大学国文科廃止
平成 9 年 4 月 1 日	比治山女子短期大学専攻科（幼児教育専攻）学位授与機構認定
平成 1 0 年 4 月 1 日	比治山大学大学院現代文化研究科（ <del>修士課程</del> ）設置（H9. 12. 19 認可） （言語文化専攻 8 ・コミュニケーション専攻 6） 比治山女子短期大学を比治山大学短期大学部に名称変更 （H9. 11. 14 認可） 比治山女子短期大学附属幼稚園を比治山大学短期大学部附属幼稚園に名称変更
平成 1 2 年 4 月 1 日	比治山大学・比治山大学短期大学部を男女共学化 比治山大学短期大学部生活学科の専攻（生活科学専攻・生活文化専攻）学生募集停止 比治山女子高等学校の収容定員（1, 200→870）変更 （H11. 7. 13 学則変更認可） 比治山大学短期大学部臨時的定員の廃止（H11. 7. 28 認可） （生活学科生活科学専攻 35 ・生活文化専攻 5, 美術科 10） 比治山大学短期大学部臨時的定員の延長（H11. 7. 28 認可） （美術科の臨定 10 人を毎年度 2 人減→H16 年度 0 人） 比治山大学の恒常的定員化（H11. 7. 28 認可） （英語文化専攻 40, コミュニケーション学科 10） （編入学定員 日本語文化専攻 13→10, 英語文化専攻 7→10 コミュニケーション学科 10）
平成 1 4 年 4 月 1 日	比治山大学短期大学部専攻科（美術専攻 7）設置 （H13. 12. 20 届出受理）
平成 1 5 年 3 月 3 1 日	比治山大学短期大学部生活学科の専攻（生活科学専攻・生活文化専攻）廃止（H15. 7. 25 届出）
4 月 1 日	比治山大学短期大学部附属幼稚園の収容定員（240→200）変更 （H15. 1. 6 園則変更認可）
1 0 月 2 4 日	学校法人比治山学園寄附行為変更届出（新学科及び学科名称変更）
平成 1 6 年 3 月 1 1 日	学校法人比治山学園寄附行為変更認可（私立学校法の改正による届出事項の制定など）
4 月 1 日	比治山大学短期大学部生活学科を総合生活デザイン学科に名称変更 （H15. 4. 28 学則変更届出受理） 比治山大学の収容定員の増加（H15. 7. 31 学則変更認可） （入学定員 240→300 収容定員 1, 020→1, 260） 比治山大学現代文化学部を改組（H15. 8. 26 届出受理） （地域文化政策学科 60, マスコミュニケーション学科 60, 社会臨床心理学科 60 設置）

年 月 日	概 要
平成16年 4月 1日	比治山大学現代文化学部コミュニケーション学科学生募集停止 比治山大学大学院現代文化研究科附属心理相談センター設置
平成17年 3月29日	比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科「栄養教諭二種免許状」課程認定
4月 1日	比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科栄養士養成系列設置 比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科が栄養士養成施設として指定 (H16. 11. 16) (厚生労働省) 比治山大学短期大学部専攻科 (美術専攻) 収容定員変更 (入学定員7→15) (H16. 12. 13 学則変更届出受理)
平成18年 2月28日	学校法人比治山学園寄附行為変更認可 (私立学校法の改正による学校法人制度の改善など)
4月 1日	比治山大学大学院現代文化研究科を改組 (H17. 6. 7 届出) (言語文化専攻8→現代文化専攻9 コミュニケーション専攻6→臨床心理学専攻5) 比治山大学大学院現代文化研究科言語文化専攻, コミュニケーション専攻学生募集停止
4月20日	比治山大学大学院現代文化研究科臨床心理学専攻が (財) 日本臨床心理士資格認定協会の第1種大学院に指定
平成19年 3月31日	比治山大学大学院現代文化研究科コミュニケーション専攻廃止 (H19. 5. 15 届出)
4月 1日	比治山大学短期大学部専攻科 (栄養専攻8) 設置 (2年制) 同専攻科独立行政法人大学評価・学位授与機構認定 (H19. 2. 16) 同専攻科4年制栄養士養成施設として指定 (H19. 2. 22) (厚生労働省)
平成21年 3月31日	比治山大学大学院現代文化研究科言語文化専攻廃止 (H21. 3. 31 届出) 比治山大学現代文化学部コミュニケーション学科廃止 (H21. 5. 15 届出)
4月 1日	比治山大学現代文化学部子ども発達教育学科設置 (H20. 10. 31 認可) 比治山大学現代文化学部子ども発達教育学科が保育士養成施設として指定 (H21. 3. 27) (厚生労働省) 比治山大学現代文化学部地域文化政策学科学生募集停止
平成22年 4月 1日	比治山大学短期大学部専攻科 (美術専攻) 学位授与機構認定 (H22. 2. 15 独立行政法人大学評価・学位授与機構認定)
平成23年 4月 1日	比治山大学現代文化学部言語文化学科の専攻 (日本語文化専攻・英語文化専攻) 廃止 (H23. 3. 24 届出) 比治山大学短期大学部専攻科幼児教育専攻学生募集停止の上廃止 (H23. 3. 29 廃止届出)

年 月 日	概 要
平成25年 1月30日	比治山大学子ども発達教育専攻科教員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の専攻科の課程として認定
2月 1日	比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科の栄養士養成施設の内容変更（学生定員 40→60）承認（厚生労働省）
4月 1日	比治山大学子ども発達教育専攻科(子ども発達教育専攻)(10)設置 (H25. 2. 25 学則変更届出) 比治山大学現代文化学部地域文化政策学科廃止（25. 3. 26 届出） 比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科の栄養士養成系列（40）を栄養士養成コース（60）に、総合系列群（130）を生活創造コース（110）に変更
10月31日	比治山大学健康栄養学部設置に伴う寄附行為変更認可
平成26年 4月 1日	比治山大学健康栄養学部管理栄養学科設置（H25. 10. 31 認可） 比治山大学健康栄養学部が管理栄養士及び栄養士養成施設として指定（H26. 3. 26）（厚生労働省・文部科学省） 比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科収容定員変更 （入学定員 170→100 収容定員 340→200）（H25.12.5 学則変更届出）
平成28年 4月 1日	比治山大学短期大学部専攻科（栄養専攻8）学生募集停止 (H27.3.23 文部科学省 報告) (H27.3.30 大学評価・学位授与機構 報告)
平成29年 3月31日	比治山大学短期大学部専攻科（栄養専攻8）廃止 (H29.3.24 文部科学省 届出) (H29.3.24 大学評価・学位授与機構 報告) 比治山大学短期大学部専攻科4年制栄養士養成施設を廃止 (H29.4.3 厚生労働省 届出)
平成29年 4月 1日	比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科栄養士養成コース（60）学生募集停止
平成30年 3月31日	比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科の栄養士養成施設を廃止（H30.4.2 厚生労働省 届出）

5 法人の組織図



## 6 役員・評議員の状況（平成29年5月1日現在）

- (1) 理事 定数 7～9名, 現員 9名, 任期 4年  
 監事 定数 2名, 現員 2名, 任期 4年

選出区分	役名	氏名	常勤 非常勤	備考
学識経験者	理事長	岡本茂信	非常勤	前比治山学園常務監事
〃	理事長職務代理者	高木勇藏	非常勤	医療法人社団高輪会高木歯科理事長
〃	専務理事	木谷健	常勤	比治山学園法人事務局長
学長・校長	理事	石井眞治	常勤	比治山大学・比治山大学短期大学部学長
〃	理事	奥田孝憲	常勤	比治山女子中学・高等学校校長
評議員	理事	赤木昌彦	非常勤	元比治山女子中学・高等学校校長
〃	理事	伊藤清子	非常勤	比治山大学同窓会楷の樹会会員代表
〃	理事	※小原健太郎	非常勤	広島ガス株式会社執行役員
学識経験者	理事	池田美津子	非常勤	比治山女子中学・高等学校同窓会会員代表
	監事	海老澤孝公	非常勤	海老澤孝公税理士事務所所長
	常務監事	石崎和法	非常勤	(株)中国しんきん総合サービス顧問

(注)※の理事は、平成29年5月1日以降に辞任した。

選出区分	役名	氏名	常勤 非常勤	備考
評議員	理事	※小原健太郎	非常勤	広島ガス株式会社執行役員

(2) 評議員 定数 20～25名, 現員 25名, 任期 4年

選出区分	氏名	常勤 非常勤	備考
法人職員	谷川宮次	常勤	比治山大学・比治山大学短期大学部副学長
〃	松永哲朗	常勤	比治山大学現代文化学部長
〃	高木茂登	常勤	比治山大学短期大学部短大部長
〃	前田宜彦	常勤	比治山大学・比治山大学短期大学部事務局長
〃	内山晴夫	常勤	比治山女子中学・高等学校副校長
〃	中林良二	常勤	比治山女子中学・高等学校教頭
〃	松岡寛昭	常勤	比治山女子中学・高等学校事務局長
〃	羽地波奈美	常勤	比治山大学短期大学部附属幼稚園園長
卒業生	池田美津子	非常勤	比治山女子中学・高等学校同窓会会員代表
〃	延本真栄子	非常勤	比治山女子中学・高等学校同窓会会長
〃	伊藤清子	非常勤	比治山大学同窓会権の樹会会員代表
〃	丸子洋子	非常勤	比治山大学同窓会権の樹会会長
理事	石井眞治	常勤	比治山大学・比治山大学短期大学部学長
〃	奥田孝憲	常勤	比治山女子中学・高等学校校長
〃	高木勇藏	非常勤	医療法人社団高輪会高木歯科理事長
保護者	西本誠喜	非常勤	比治山大学後援会会長
〃	馬渡功一	非常勤	比治山大学後援会副会長
〃	河野純	非常勤	比治山女子中学・高等学校PTA会長
〃	榎本真由美	非常勤	比治山女子中学・高等学校PTA副会長
〃	一色美佐	非常勤	比治山女子中学・高等学校PTA副会長
〃	吉井由佳	非常勤	比治山大学短期大学部附属幼稚園保護者会会長
学識経験者	赤木昌彦	非常勤	元比治山女子中学・高等学校校長
〃	古居正武	非常勤	税理士
〃	新見博三	非常勤	元比治山大学事務局長
〃	※小原健太郎	非常勤	広島ガス株式会社執行役員

(注) ※の評議員は、平成29年5月1日以降に辞任した。

選出区分	氏名	常勤 非常勤	備考
学識経験者	※小原健太郎	非常勤	広島ガス株式会社執行役員

## 7 学生・生徒・園児数（平成29年5月1日現在）

## (1) 比治山大学 現代文化学部

学 科 名	入学 定員	編入学 定員	入学 者数	収容 定員	現 員		
					男子	女子	
言語文化学科	120	5	142 [ 2]	490	513	295	218
マスコミュニケーション学科	60	3	55 [ 1]	246	192	126	66
社会臨床心理学科	60	5	79 [ 1]	250	281	153	128
子ども発達教育学科	70	10	80 [ 1]	300	313	127	186
計	310	23	356 [ 5]	1,286	1,299	701	598

[ ]は編入学者で外数

## (2) 比治山大学 健康栄養学部

学 科 名	入学 定員	編入学 定員	入学 者数	収容 定員	現 員		
					男子	女子	
管理栄養学科	70	5	83 [ 0]	290	285	34	251
計	70	5	83 [ 0]	290	285	34	251

[ ]は編入学者で外数

## (3) 比治山大学 専攻科

専 攻 科 名	入学 定員	入学 者数	収容 定員	現 員		
				男子	女子	
子ども発達教育専攻科	10	0	10	0	0	0
計	10	0	10	0	0	0

## (4) 比治山大学 大学院 現代文化研究科

研究科名等		入学 定員	入学 者数	収容 定員	現 員		
					男子	女子	
現代文化研究科	現代文化専攻	9	0	18	0	0	0
	臨床心理学専攻	5	7	10	14	4	10
計		14	7	28	14	4	10

## (5) 比治山大学短期大学部

学 科 名	入学 定員	入学 者数	収容 定員	現 員		
				男子	女子	
幼児教育科	100	105	200	217	2	215
総合生活デザイン学科	100	84	200	196	4	192
美術科	70	50	140	107	14	93
計	270	239	540	520	20	500

※総合生活デザイン学科栄養士養成コースは平成29年4月1日に学生募集停止とした。

## (6) 比治山大学短期大学部 専攻科

専攻名	入学定員	入学者数	収容定員	現員		
				男子	女子	
美術専攻	15	16	15	16	0	16
計	15	16	15	16	0	16

## (7) 比治山女子高等学校

区分	入学定員 (募集人員)	入学者数	収容定員	現員		
				男子	女子	
高等学校 全日制普通科	290 (250)	245	870	696	—	696

## (8) 比治山女子中学校

区分	入学定員 (募集人員)	入学者数	収容定員	現員		
				男子	女子	
中学校	250 (90)	45	750	162	—	162

## (9) 比治山大学短期大学部附属幼稚園

区分	入学定員	入園者数	収容定員	現員		
				男子	女子	
幼稚園	70	71	200	169	92	77

## 8 教職員数（平成29年5月1日現在）

## (1) 教育職員

区 分	専 任							非常勤
	教授	准教授	講 師	助 教	実験助手 技術助手	教 諭	計	
大 学	41	14	7		4		66	※ <sub>3</sub> 157
短 期 大 学 部	16	5	7	1	2		31	※ <sub>3</sub> 132
高 校						※ <sub>1</sub> (10)48	48	26
中 学 校						※ <sub>1</sub> (4)19	19	8
幼 稚 園						※ <sub>2</sub> (2)8	8	6
計	57	19	14	1	6	(16)75	172	—

※<sub>1</sub> ( ) は、臨時採用教員で内数、※<sub>2</sub> ( ) は、期限付き専任教員で内数  
 ※<sub>3</sub> 述べ人数

## (2) 事務職員

区 分	専 任					臨時 職員
	事務職員	司 書	実習助手	その他	計	
法 人 事 務 局	4				4	1
監 査 室					0	
学 長 室	4				4	
大学・短期大学部 事 務 局	34	2			36	10
大学・短期大学部					—	20
中学・高校事務局	※(1)7			1	8	
付 属 幼 稚 園					0	2
計	49	2	0	1	52	34

※ ( ) は、臨時採用職員で内数

## 9 校地・校舎の状況（平成30年3月31日現在）

区 分	土 地	建 物	備 考
牛田キャンパス (広島市東区牛田新町)	95,158.94 m <sup>2</sup>	37,263.08 m <sup>2</sup>	法人事務局, 大学, 短大
	5,416.00 m <sup>2</sup>	1,613.74 m <sup>2</sup>	幼稚園
霞キャンパス (広島市南区西霞町)	19,423.15 m <sup>2</sup>	23,042.08 m <sup>2</sup>	中学, 高校
研修施設 (三次市三和町)	37,170.00 m <sup>2</sup>	3,032.31 m <sup>2</sup>	からまつ学寮
計	157,168.09 m <sup>2</sup>	64,951.21 m <sup>2</sup>	

## II 事業の概要

### 1 主要事業の概要

#### (1) 法人事務局

##### ア 法人事務局の使命（ミッション）

教育基本法及び学校教育法に従い、悠久不滅の生命の理想に向って精進する豊かな愛情と科学的知性をそなえた心身共に健康な人間を育成するため、理事会のガバナンス機能の向上等を図り、評議員会と併せてその活性化を進める。また、学校法人として、各部門の責任感を持った運営を促進しながら、同時に、学校法人として統一感を持ったマネジメント機能の向上を図る。

##### イ 法人事務局のビジョン

- ・ 理事会が、そのガバナンス機能を適切に発揮し、活性化している。
- ・ 評議員会が、諮問機関としての役割を適切に発揮し、活性化している。
- ・ 各部門が、部門ごとの責務を自覚したマネジメントが実現しているとともに、学校法人として統一感・一体感を持ったマネジメント機能が向上している。
- ・ 開学80周年記念事業が円滑に実施され、新たに90周年に向けた取組がスタートしている。

##### ウ 事業の概要

項目	事業計画	実施状況	摘要
<b>1 理事会・評議員会機能の活性化</b>			
	ガバナンス機能を適切に発揮する理事会及び理事会運営の在り方の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理事会は、年間計画に基づき、臨時を含め8回開催した。</li> <li>・ 理事会のあり方等について、国の動きや全国状況を整理し理事会に示した。</li> </ul>	<実出席率> 理事会への出席状況 理事 98.5% 監事 68.7%
	予算執行状況の進捗管理システムの確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予算の執行状況及び主要事業計画の進捗状況（9月末）を10月の評議員会及び理事会に中間報告した。</li> <li>※主要事業計画の進捗状況は、事業概要、進捗状況の記載だけでなく、A～Dの進捗度、予算、実績額、執行率等数値的に執行状況を把握出来る様に様式を改善した。</li> <li>・ 予算執行率を含めた事業計画の進捗状況（1月末）を2月の理事会に報告した。</li> </ul>	<実施状況> H29.10.27 開催の評議員会・理事会  H30.2.9 開催の理事会
	積極的な情報公開の在り方の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財務等情報の公開は、規程に沿って決算終了後1か月以内の6月にホームページに掲載した。</li> <li>①学園の財政状況の経年比較を平成24年度から平成28年度の5年間。平成24年度から平成26年度は、新会計基準に読み替えている。</li> <li>②財務比率について、新会計基準に対応した財務比率を掲載した。</li> </ul>	
	学園内部(理事・評議員・教職員間)の情報共有の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学校の主要スケジュールを毎月理事にメールで提供した。</li> </ul>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>各部門の公表資料の一覧表を作成し、提供情報の検討を行った。</li> </ul>	
	理事研修の継続的实施	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師による理事研修会を2回実施した。</li> <li>①日時：平成29年8月24日（木） 15:00～17:00 講師：三田国際学園中学校・高等学校学園長，一般財団法人新時代教育研究所代表理事 大橋清貫氏 講演：「学校教育に求められていることとは—学校改革のために必要なこと」</li> <li>②日時：平成29年9月1日（金） 13:00～15:00 講師：文部科学省高等教育局私学部長 村田善則氏 講演：「私立大学を取り巻く教育行政の動向について」</li> </ul>	理事・監事の出席率 95.0%
<b>2 評議員会機能の活性化</b>			
	諮問機関としての機能を適切に発揮する評議員会の在り方の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>評議員会は、年間計画に基づき、臨時を含め4回開催した。</li> <li>効率的な会議の進行のため、当日の説明を簡潔にして審議する時間を多く取れるよう資料の発送は1週間前を厳守した。</li> </ul>	<実出席率> 評議員会への出席状況 評議員 70.4% 監事 87.5%
	理事・評議員必携の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>学園内外の学校関係事項について新しい動きなどの説明や教育及び会計用語集に用語を加えるなど内容の充実を図り、資料編も平成29年度の内容等に更新し配付した。</li> </ul>	
<b>3 マネジメント機能の向上</b>			
	学園全体の収入確保・支出削減を取り組む組織体制の検討	平成28年度に策定した経費削減計画に基づき、以下の取組を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>経費削減について、電気料金の減額契約，LED照明への移行，収入確保について、売店から売上額の1%を使用料として徴収するなどの取組みを行った。</li> <li>①電気料金・電力量 平成29年度から電気基本料金を減額契約した。また、一部建物内の照明をLED化へ移行した。（LED照明への移行後の本格稼働は10月以降）</li> <li>②その他 学内の広島銀行ATMを廃止し、経費負担額を削減し、売店のリニューアルに伴い新たにATMを設置。</li> </ul>	<削減効果> （電気料金） 約4,817千円 （電力量） 約-42千kwh  （年間負担額） 1,944,000円 （使用料） 約508千円
	学園全体の総合的な人事政策の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>総人件費抑制，教職員定員管理計画，教職員育成等の人事政策方針を検討中。</li> </ul>	

4 学園創立 80 周年記念事業の検討			
	記念事業準備委員会の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立 80 周年記念事業準備委員会を 2 回開催した。</li> <li>①第 4 回準備委員会 開催日：平成 29 年 12 月 15 日（金） 内 容：記念事業（項目）を決定 記念式典・祝賀会の開催期日，会場等を決定 期日 平成 31 年 11 月 4 日 （月・振替休日） 場所 リーガロイヤルホテル 広島</li> <li>②第 5 回準備委員会 開催日：平成 30 年 2 月 9 日（金） 内 容：記念事業の内容（概要）を決定 実施組織の編成方針，設置要綱，構成員の選任方法等を決定</li> </ul>	
	寄付金募集の取り組みの検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園の教育環境の充実・発展に向けた資金の確保のため，役員，教職員，保護者（大学等）に寄付金募集を実施した。</li> <li>・創立 80 周年に向けて，寄付金募集活動を実施するため，70 周年記念事業や毎年実施している寄付金募集のデータを参考に寄付者の動向について分析・整理した。</li> </ul>	<H29 年度実績> 件数 96 件 金額 2,735,369 円

## (2) 比治山大学, 比治山大学短期大学部

## ア 比治山大学

## 《ミッション》

私たちは、建学の精神のもと、学生の教育に重点を置く大学として、豊かな人間性を培い、生きる力としての汎用的能力（自立・想像・共生・創造）を育み、深く専門の知識及び技能を身につけさせることにより、社会や時代の求める専門職業人を育成し、生命の尊厳と永続性という視点から、グローバル時代を見据え、地域と共生しながら、持続可能な社会の発展に貢献することを使命とします。

## 《ビジョン》

学生が能動的に学ぶ「卓越した教育」の地域における高等教育拠点となる。広く深い教養に裏打ちされた豊かな人間性を培い、汎用的能力（自立・想像・共生・創造）を育み、グローバル化し急激に変化する 21 世紀に求められる異文化対応力を身に付けさせ、地域や世界の発展に貢献できる幅広い職業人及び専門知識を生かした専門職業人として、中核的人材を育成する。

## イ 比治山大学短期大学部

## 《ミッション》

私たちは、建学の精神のもと、学生の教育に重点を置く大学として、豊かな人間性を培い、生きる力としての汎用的能力（自立・想像・共生・創造）を育み、広く専門の知識及び技能を身につけさせることにより、地域のニーズに応える職業人を育成し、生命の尊厳と永続性という視点から、グローバル時代を見据え、地域と共生しながら、持続可能な社会の発展に貢献することを使命とします。

## 《ビジョン》

学生が能動的に学ぶ「卓越した教育」の地域に密着した短期高等教育機関の中核的拠点となる。

広い教養に裏打ちされた豊かな人間性を培い、汎用的能力（自立・想像・共生・創造）を育み、地域に求められる職業的専門性を身に付けさせ、実践力を高めていくことのできる職業人材を育成する。

## ウ 個別ビジョン

- 1 教育改革ビジョン
- 2 研究活性化ビジョン
- 3 地域貢献ビジョン
- 4 国際化ビジョン
- 5 基盤整備ビジョン

## エ 具体的な事業計画

平成 29 年度事業計画は次の 2 つの構成としている。

- 1 中期計画（平成 28 年度から 33 年度）に掲げられた個別ビジョンに基づく具体的な重点事業のうち、平成 29 年度に各担当部署が取り組む事業。
- 2 喫緊課題に対し各担当部署が取り組む事業で、基本的に平成 29 年度も継続事業。

## ウ 事業の概要

## 1 中期計画重点事業

項目	戦略（事業計画）	実施状況	摘要
<b>1 教育改革ビジョン</b>			
<b>(教学)</b>		＜教学委員会, 学生支援室＞	
1 大学教育再生加速プログラムの継続	平成 30 年度の「大学教育再生加速プログラム(以下, AP と記述)事業」補助終	<b>ア AL 推進室と学習サポートセンターを統合した組織の設置</b> ① 新組織の検討・設置・運用 平成 30 年度からの検討に向け, AP	

	<p>了後もアクティブ・ラーニング(以下、ALと記述)を活用した授業と学修成果の可視化に発展的に取り組む。</p> <p>それにより、能動的・主体的に学ぶ卓越した教育を推進し、本学独自の汎用的能力(自立・想像・共生・創造)を育む。</p>	<p>事業やAL推進室の活動把握。</p> <p>また、平成30年度からはAP事業(平成31年度末で事業終了)の着地点の検討も開始予定。</p> <p>② 人員配置計画 学習サポートセンターは教職指導センターとの兼任の非常勤教職員3名を継続配置。</p>	
		<p><b>イ AL推進機能の充実</b></p> <p>① ファカルティ・ディベロッパーの養成と組織化 各学科・コースに1名ずつ任命する「ファカルティ・ディベロッパー」(FDer) ※を中心に、授業公開・参観やレッスンスタディの推進を図ることで、「比治山型AL」についての全学的な共通理解・共通認識を深める取組を充実させ、日常的なFD・SD活動を推進。</p> <p>② AL推進室の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALコーディネーターと技術助手の専従スタッフ2名を配置して、教職員がALを実践しやすい環境を維持するとともに、AL用具・タブレット端末(iPad)等「比治山型AL」授業に必要な道具類の保管・管理・貸し出し。また授業に関するミーティングや少人数の研修に活用。さらに、ALや学修成果の可視化関連情報を蓄積し学内配信。</li> <li>・平成29年度に実施された「比治山型AL」事例を「ALの実践事例集～ICT, LMS関係～」に収録し、先進的な取組として公開し顕彰。</li> </ul>	<p>※ ALを中心とした授業改善(FD)を推進する教員</p> <p>平成28年度にALを導入した授業科目数の割合は、 大学：88% 短大：90%</p>
		<p><b>ウ 学修成果の可視化機能の充実</b></p> <p>① Hi!wayのPDCA機能の見直し・改善 学修成果の可視化のために、本学学生情報システム「Hi!way(ハイウェイ)」のeポートフォリオ機能として「Hi!check(ハイチェック)」「Hi!step(ハイステップ)」を運用。</p> <p>これらの利用促進のため、学期毎のオリエンテーション等を利用して学生向けガイダンスを行い周知徹底するとともに、チューターやゼミ担当教員等によるフォローアップも適宜実施。そして、効果測定のため、「Hi!check・Hi!stepアンケート」及び「AP学生モニターに対する聞き取り調査」を実施。</p> <p>また、「Hi!way(ハイウェイ)」については、平成28年度に導入したe-learningシステム「Hi!space」(LMS)</p>	<p>【参照】 AP事業 平成29年度 実施報告書</p>

		<p>の実践・検証を行い、さらに、「比治山型ディプロマ・サブリメント」を設計・構築。</p> <p>② 指標開発・分析 AP事業の効果測定の基本資料とするため、本学独自開発指標「比治山力レポート」等を実施し、学生の基礎的な学修スキルや「4×3の比治山力」（汎用的能力）の向上内容を検証。</p>	
		<p><b>エ 学習サポート機能の充実</b> 学習サポートセンターは、日常的に学習相談が多く予約で埋まっている状況。担当者(英語担当の臨時職員)は多忙を極めているようだが、検証・改善が充分でないことが課題。 また、専任（非常勤）職員のみで対応している組織体制を抜本的に検討することが必要。 個別プログラムとしては、「数学（算数）得点アップゼミ」、「メモの取り方達人講座」を実施。</p>	
2 学生満足度向上	AP事業の成果と合わせて本学の教育内容の充実に取り組む。	<p><b>ア 学生便覧等の改定と学生配布資料の総点検</b> 計画どおり、平成29年4月から改訂版を使用。また、本学情報システムの更新に伴い「Hilwayの手引き」を改訂し平成30年度版として配付。</p>	
		<p><b>イ 大学・短大を含め全学での履修単位の上限設定</b> (大学) 各期の上限を24単位と定めているが、子ども発達教育学科、管理栄養学科は独自に対応。 (短期大学部) 一応の上限設定の形を示し、平成30年度に学則改正、平成31年度から実施するよう各学科に依頼。</p>	
		<p><b>ウ 成績評価の厳格化とGPAの活用</b> 第2回教職員合同研修会（3月5日）において、AP事業報告の一環として、「成績評価の厳格化・平準化について」の現状分析報告を実施。大学・短大別及び学科ごとの成績分布を示したうえで、平成29年度版「教務の基本事項」の該当部分を配付し、成績評価の厳格化・平準化の重要性について再確認。</p>	

<p>3 高-大-社会の接続事業</p>	<p>新入生がスムーズに大学生生活へ移行できる仕組み（高大接続）に加えて、出口へ向けた支援（社会への接続）の仕組みを確立する。</p> <p>上記の2つの接続の視点から、HIJIYAMA 手帳の改変を始め、教学や学生生活、学外活動に関わる部署を連動させる仕組みを考えていく。</p>	<p><b>ア 「4×3の比治山力」の意識づけ</b></p> <p>「4×3の比治山力」を始めとするAP事業の取組のねらい・概要をまとめた資料を教職員に配付するとともに、ポスターをAL推進室前に掲示し、学生への意識付けを図った。</p> <p>また、オープンキャンパス・高校教員対象進学説明会・インターンシップ・学内合同企業説明会などを利用して、保護者・高校関係者・企業などの学外者へ周知。</p>	
		<p><b>イ college skills (カレッジスキル), career skills (キャリアスキル), life skills (ライフスキル) (CCL スキル) 習得の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HIJIYAMA 手帳の「ノートの作り方」「レポートの書き方」などのページの改訂を図るため、手帳の使用実態や要望などについてのアンケートを学生・教員対象に実施。意見をふまえて、利便性向上を目指した小修正を実施。</li> <li>・各学科の「初年次セミナー」での取組を調査し、情報共有を図るとともに、平成30年度より「大学生のためのマナー講座」を実施するための準備。</li> <li>・キャリアスキル向上を目指すため、学外のキャリアアドバイザー・企業の人事担当者を交えた Hi!step・Hi!check の活用方法に関する検証・協議を実施。</li> <li>・平成30年度より「初年次セミナー」において「キャリア入門（働くことへのガイダンス）」を実施するための準備。</li> </ul>	
		<p><b>ウ 大学・在学生・卒業生／地域が連携できる仕組みづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島市立戸坂小学校と連携して、本学学生により「学校だより」を翻訳。</li> <li>・地元企業の業務を学ぶ目的で、企業見学バスツアーを実施した。（9月・1月）</li> <li>・JT主催の森林保全活動ボランティアに26名参加。</li> <li>・島根ふるさとフェアのボランティアに6名参加。</li> </ul>	
<p>4 「4×3の比治山力」を支えるための基礎を構築</p>	<p>大学生としてふさわしい、能動的に学ぶ力や研究やイノベーションに向かう必要最小限の基礎力を身に付けることをねらいとする「4×3の比治</p>	<p><b>ア 「4×3の比治山力」に沿った授業（「日本語リテラシー」）構築に向けたテキスト改訂とその検証</b></p> <p>昨年改訂したテキスト（「日本語リテラシー」）を基に、ALを導入した授業構築を共通認識として、各教員が授業運営。学生の側にもALを授業に導入することの意図や意味が浸透しつつある。各教員のノウハ</p>	

	山力」を支えるための基礎を構築する。	ウをミーティングや授業記録簿によって共有することで、より効果的な授業運営を行うことができた。	
5 外国語関係科目の授業者に対してアクティブラーニングの授業形態等の研修	「4×3比治山力」の向上に向けた授業改善を図るため、共通教育科目（コミュニケーションリテラシー）における外国語関係科目の授業者にALの授業形態等の研修を行う。	<b>ア 非常勤講師に対する研修</b> 年度初めに非常勤講師連絡会を開き、AP事業について詳しく説明。	
6 大学を取り巻く様々な課題への取り組みと卓越した教育の推進	大学を取り巻く様々な課題に取り組み、卓越した教育を行うことを目指す。	<b>ア 単位制度の弾力化による多様な教育の実施と教授方法の工夫・開発</b> 【検討項目】 (1) 14週 of セメスター期間 (2) モジュール（※）制の導入 (3) ターム制・クォーター制の導入 (4) 授業時間割の変更 (5) カリキュラムのスリム化 平成29年度は、教職課程の再課程認定に伴い現行の教育システムを維持する必要があるため着手しなかった。	※ 基礎科目を1つの学修目的のもと体系的にまとめた科目群
		<b>イ 社会的・職業的自立に関する指導のための教育体制の整備</b> ・パソコン検定受検を授業等で奨励しており、平成29年度については3年生の受検者が増加。 ・学修活動のPDCAサイクル定着のために、教学委員をとおして、Hi!step(eポートフォリオ)の活用を促進。 ・Hi!step(eポートフォリオ)（※）の活用については、学科や学年によって温度差があるので、APワーキングや教学委員と連携して進めている。 ・教養教育の見直しについては、大学・短大学生を対象とした科目「異文化を知る」の第2クラスとして英語のみによる授業を平成30年度から開設予定。 ・「共通基盤教育機構」の組織化を含めた教育体制のあり方については未検討。	※ 学修成果を収集したもの
		<b>ウ 学修支援及び授業支援の充実</b> ・全員面談、オリエンテーション時のチューター面談、大学での三者面談 5月～6月に大学1・2年生、短大1年生を対象に実施。情報を学科内で共有。 ウェルネスセンター(学生相談室)、キ	

		<p>キャリアセンター(なんでも相談)とも連携して対応。</p> <p>平成 30 年度からは、専任職員の学生相談員が着任し連携して学生の修学支援等に対応予定。</p>	
<b>(キャリアガイダンス・支援)</b>		＜キャリアセンター, キャリア支援室＞	
7 学生の主体的キャリアビジョン育成システム	<p>キャリア形成科目の内容を充実させ、Hi!stepの積極的な活用を目指すことにより、学生が主体的にキャリアビジョンを持てる仕組みをつくる。</p> <p>学生相談のハードとソフトの改善を図るとともに、キャリアサポート体制を構築し、就活生・内定者・卒業生の連携強化に取り組む。</p>	<p><b>ア キャリア形成科目内で HI!step 有効活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目キャリアデザインでは、「マイチャレンジ」「マイアプローチ」の全員入力を実施。自発的な行動計画の検討・振り返りに活用。</li> <li>・各自のキャリア活動報告や企業研究書など「マイアルバム」にデータ保管を促し、卒業後の人生選択に有効な資料として活用するように指導。</li> <li>・就職ガイダンス(1026, 11/2・16)で、HI!stepのマイストーリー、マイチャレンジ、マイアルバムを履歴書作成、面接対策に活用する就職支援を実施。</li> <li>・なんでも相談会で、HI!stepを活用した支援を強化。(カウンセラーにHI!step活用を徹底。)</li> </ul>	<p>なんでも相談会利用者数</p> <p>2月</p> <p>㉗32名</p> <p>㉘96名</p> <p>㉙114名</p> <p>3月</p> <p>㉗35名</p> <p>㉘146名</p> <p>㉙63名</p>
		<p><b>イ キャリアセンターの体制強化・相談環境の充実</b></p> <p>新たに、各学科の特色に合わせた就職先開拓と専門性の高い全学的な就職支援を目的に、専門的な経験を積んだ参事を1名配置。</p> <p>企業訪問結果は、キャリアセンター運営委員会で報告しサイボウズで情報共有。</p> <p>12月に同委員会で企業訪問報告会を実施し、3月にはキャリアセンター長と副委員長が年度末報告を受けた。</p>	
		<p><b>ウ キャリアサポーターの計画実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比治山キャリアコミュニティ・ホームカミングデイ</li> </ul> <p>比治山祭で、総合生活デザイン学科が開催。卒業生が家族を伴い25名参加。在学生と懇談。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次のガイダンスで、来年のキャリアサポーター参加の意向を調査。</li> </ul> <p>先輩からのアドバイスは受けたいが、友人や後輩へのアドバイスには自信がない傾向が判明。</p>	
		<p><b>エ キャリアセンター環境の検討</b></p> <p>イと連動させて引き続き検討。</p>	

		<p><b>オ 共通基盤科目の導入と資格取得</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査・準備 資格取得対策講座及び就職試験対策講座について、学期始めのオリエンテーションでガイダンスを開催。簿記講座を金融の事務職内定者に個別に紹介したが、企業からの課題や資格取得が課せられたため受講に繋がらなかった。説明会参加人数を増やすことが講座受講者増につながるため、次年度に向け対策を検討。</li> <li>・実績 説明会参加人数 Ⓒ95名→Ⓓ69名 資格取得対策講座： Ⓒ5講座43名→Ⓓ4講座32名、 就職試験対策講座： Ⓒ7講座70名→Ⓓ5講座66名</li> </ul>	
		<p><b>カ 希望職種調査と業界研究</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会社見学バスツアー「BtoBを知ろうコース」を実施。3年生8名、短大生2名が参加。(9月)</li> <li>・【新規】1・2年次を対象に広島空港、ホテル、八天堂を見学する企業見学バスツアーを開催し14名が参加。卒業生の社員からの説明を聞き、出口の準備を意識した学びを希望する学生がいた。(1月)</li> </ul>	
		<p><b>キ ボランティア活動の必修化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JT主催の「ひろえば街がきれいになる」に17名が参加し、JTの職員と他のボランティアを支援(5/3)</li> <li>・【新規】JT主催の植林ボランティアに26名参加(全体83名参加)(11/23)。JT社員、新見市の地元住民との活動をとおして、継続参加を希望する学生がいた。</li> </ul>	
		<p><b>ク 公務員などの特別プログラム体制の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内公務員ガイダンス 広島県警察本部(7/7)、 広島市人事委員会・消防局(9/14, 15) 1年生を中心に約80名が参加 講師が公務員の種類や入庁からのキャリアや受験の準備について説明。 卒業生の職員も参加し、積極的に質問ができる環境を作ることができた。</li> </ul>	
(学生支援)	<学生委員会, 学生支援室> <図書館, 図書課>		

<p>8 主体的な学びの意欲と強靱な心身の育成</p>	<p>学生が自己の夢や志を実現していく上で必要な専門的知識・技能の習得や豊かな人間力を身に付けるため、「自主的・集団的活動を通して社会性を養い、個人の資質・能力を伸ばす課外活動の活性化」と「食育の充実による学生の食生活の改善と健康な心身の育成」に取り組む。</p>	<p><b>ア 自主的・集団的活動を通して社会性を養い、個人の資質・能力を伸ばす課外活動の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ活動活性化制度の推進 活動内容の充実や地域貢献意欲の高いクラブに1クラブ当たり 50 万円を上限に支援金を支給する「クラブ活性化支援金制度」をスタートさせ、プラスバンド部（オリジナル曲依頼）など4団体に150 万円を補助。</li> <li>・特色あるクラブの支援 大学の個性として「伝統文化の継承支援」「マイナー個人競技の受け皿」を打ちだし、芸石神楽団と射撃部（H29 年創部）を特色あるクラブとして積極的に支援。神楽団には衣装代など 200 万円、射撃部には練習場への送迎バス代 210 万円を補助。神楽部は外部からの公演依頼も多く、中国新聞でも紹介。</li> </ul>	
		<p><b>イ 食育の充実と学生の食生活の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育プロジェクト 管理栄養学科と総合生活デザイン学科の学生が、健康的なメニューを考案し、それぞれレストラン・モリ（12 回）とカフェ・ルーチェ（8 回）で提供。</li> <li>・朝食無料キャンペーン レストラン・モリの協力で、温かいスープと豚汁を交互に無料で 100 食ずつ提供（延べ4 日で計 400 食）。</li> </ul>	
<p>9 「Me+Library」を含む図書館の充実</p>	<p>平成 26 年度に設置したラーニング・コモンズ「Me+Library」を含む図書館全体のハード、ソフトを更に充実させ、学生の学修の場や居場所としての役割を果たす。</p>	<p><b>ア 図書館設備の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年度「図書館調査会」の活動内容 広島修道大学、倉敷芸術科学大学の図書館やラーニング・コモンズを見学。 3 月、報告書（案）を作成し、図書館長に報告。</li> <li>・丸善のプレゼンテーションツール購入。</li> <li>・破損椅子を可動式椅子に交換。</li> </ul>	
		<p><b>イ 図書館の開館時間延長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業期の 8 時 30 分開館を実施。 早朝開館時の入館者は、1,514 名（前年比+193%）</li> <li>・今後は、図書館運営委員会の審議を経て、徐々に開館時間を延長し、学生が学内に長く留まるための学修の場や居場所としての役割を果たしたい。</li> </ul>	

		<p><b>ウ 図書館塾＝学力向上委員会(仮称)の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「寺子屋プロジェクト」 後期の美文字講座に、17名の学生が参加。Me+Libraryにおいて、学生による学習アドバイザー(ボランティア)が学生を指導。</li> </ul>	
		<p><b>エ 図書館システムに係るサーバー及びパソコンの更新</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12月に業務用パソコンを更新。 →事務効率がアップ。</li> <li>・広島県立図書館の横断検索に所蔵データを提供する予定であったが、先方の都合で平成30年度にずれ込んだ。</li> </ul>	
<b>(入試広報)</b>		＜教育広報委員会, 入試委員会, 入試広報室＞	
10 広島県内外のみならず世界から、優秀で志の高い入学生の確保	<p>広島県内外から優秀で志の高い入学生を確保するため、きめ細かな広報の仕組みを確立する。</p> <p>特に、県内出身者(87.2%,H27)は維持しながら、他県からの入学者増に取り組む。</p>	<p><b>ア 広報による県外接触数増加(志願者増)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県外(愛媛・島根・山口)WEBサイトでのバナー広告、愛媛県松山市駅での電照広告、山口県内JR徳山駅、新山口駅でのデジタルサイネージ、島根県においては路線バスの交通広告を掲出。その他、新たに高知県において、駅構内看板、WEBサイトでのバナー広告を実施。</li> <li>・県外の進学相談会(会場ガイダンス)等へ積極的に参加し、直接接触による広報強化に努めた。</li> </ul>	
		<p><b>イ 在学生による高校生への直接PR(志願者増)</b></p> <p>オープンキャンパス、広島市内の会場や高校内ガイダンスにおいて、直接本学の在学生からPRをすることによる広報強化を図った。内容は、会場・高校内ガイダンスにおいて、10名(前年度5名)の在学生が入試広報室員に同行し、高校生に向けて直接対話し、本学の学びの特色、大学生活などの紹介を行った。</p>	
		<p><b>ウ 入学者確保</b></p> <p>平成30年度入学者選抜試験における入学者は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代文化学部(定員310名) →365名(前年度356名)</li> <li>・健康栄養学部(定員70名) →58名(前年度83名)</li> <li>・短期大学部(定員270名) →223名(前年度239名)</li> </ul> <p>となった。</p>	

		<p><b>エ 入試システム改革（WEB出願）</b></p> <p>【WEB出願】 平成28年から導入したインターネット（WEB）出願システム2年目の本年度は、導入済みの入試（推薦/一般/センター利用）に加えAO入試も実施した。また、同システムを利用したWEB上での合格発表機能も追加で構築、導入した。</p> <p>【入試改革】 入学者選抜改善ワーキングが平成29年12月に発足。本学での入試改革を推進していくに当たっての企画案やスケジュール案等を作成。2月に第1回ワーキング、3月には外部講師による講演を実施した。</p> <p>平成30年度前半は、他大学、高等学校等の各方面より入試改革・入学前教育について具体的な情報の収集、データ分析を実施し、本学の入試改革の準備を進めていく。</p>	
<p><b>2 研究活性化ビジョン</b></p> <p style="text-align: center;">＜研究・連携・広報担当副学長，総務室施設・研究・連携担当＞</p>			
11 各教員個々の教育研究力向上と研究成果レベル向上，研究活動成果発信の体制整備及び研究推進支援の充実	研究活動成果を大学として発信できる体制を整備するとともに，本学の卓越した教育を支える研究を推進するための制度的支援を充実させ，教育研究面での本学のブランド力向上を図る。	<p><b>ア 研究実施体制の整備・充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費公募説明会開催 9月</li> <li>・採択経験教員による申請書のチェック（随時）</li> </ul>	
		<p><b>イ 研究成果の有効な発信</b></p> <p>比治山大学研究助成（地域連携）で実施した研究について「生涯学習・地域連携センター便り」に掲載し，県内公民館，博物館，公開講座参加者に配付，HPに掲載。</p>	
<p><b>3 地域貢献ビジョン</b></p> <p style="text-align: center;">＜研究・連携・広報担当副学長，総務室施設・研究・連携担当＞</p>			
12 大学諸活動の「見える化」推進による地域のニーズへの対応と学科の特性に応じ学生参加型地域貢献・連携活動の推進。	<p>本学が保持する強みを積極的に発信するなど活動の「見える化」を推進し地域のニーズに応える。</p> <p>また，学科の特性に応じた学生参加型の地域貢献・連携活動を積極的に行うための機能強化と体制整備を図る。</p>	<p><b>ア 地域へのシーズの積極的発信（活動の「見える化」の推進）</b></p> <p>各学科で行った地域連携活動について「生涯学習・地域連携センター便り」（第3号）に掲載。県内公民館，博物館，公開講座参加者に配付，HPに掲載。</p>	
		<p><b>イ 地域貢献事業（教育・研究）の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひろしま里山プロジェクト」「ひろしま未来博2017」（3月～11月）に特別協力団体として登録。</li> <li>ココロザシ応援プロジェクトに大学1件，短大1件のエントリーし，採択，補助金を受け，事業を実施。</li> <li>また，「ひろしま未来博2017」クロージングイベント（11/26）において，上記事業で開発したメニューについて，調理，販売を受託。</li> <li>・広島東区役所「夏の夜，祈りと平和の夕</li> </ul>	

		<p>べ」(8/5)花いっぱいプロジェクトに学生(現代文化学部1名,短期大学部2名)が参画。</p> <p>「まち恋女子プロジェクト」(10月～3月)に学生(健康栄養学部8名,短期大学部5名)が参画。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・牛田学区社会福祉協議会福祉の町づくり部会へ学生・教職員参加(4/27)</li> </ul>	
		<p><b>ウ 地域貢献事業(生涯学習)の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座(14講座うち連携講座6講座)を開講。延べ参加者1,065名。</li> <li>・リビング新聞主催「子ども未来はっけん大学」「自分専用「めし碗」づくり」(8/18)を開催。30組53名が参加。</li> </ul>	
		<p><b>エ 機能強化と体制整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都嵯峨野 BRIDAL VISION 4/9(日)於:広島シャレオ 広告協賛し,総合生活デザイン学科2年生が運営スタッフとして参加。</li> <li>・牛田公民館ふるさとまつり 5/14(日)於:牛田公民館 幼児教育科2年生が「ふれあいちびっこランド」運営と出演</li> </ul>	
<p><b>4 国際化ビジョン</b> <span style="float: right;">&lt;国際交流委員会, 学生支援室&gt;</span></p>			
<p>13 国際化5戦略(①海外留学促進②留学生受入促進③教職員国際化支援④地域グローバル化対応⑤グローバル人材養成)と国際交流センター(仮称)の設置</p>	<p><b>【第1の戦略】</b> 学生の海外留学を促進する。 研修費が安く,しかも日本との関係が一層密になるであろうアジアの海外研修拠点を整備する。 大学間交流協定を戦略的・積極的に締結・維持するコンソーシアムへの参加を検討し海外留学促進に努めるとともに,積極的に大学情報を発信し大学の知名度向上にも努める。</p> <p><b>【第2の戦略】</b></p>	<p><b>ア 国際交流センター(仮称)を中心とした国際化ビジョン実施体制の確立</b></p> <p>10号館2階に設置された国際交流センターを国際交流の拠点として,国際交流に関わる事業(海外派遣学生と留学生の支援・TOEIC講座・留学生による中国語講座・留学生との交流会・留学生キャンパスツアー・国際共同研究セミナー)を企画・実施。</p>	
		<p><b>イ 学びの多様性に応じた海外研修プログラムの開発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東南アジア文化体験研修 9/5～9/14, シンガポール, 参加者8人</li> <li>・コンソーシアム参加計画 UMAP(アジア太平洋大学間交流機構)参加という形で実施。</li> <li>・海外インターンシップ 12/18～12/22, 韓国, 参加者2人。 2/15～3/19, メルボルン, 参加者1人。</li> </ul>	

	<p>優秀な留学生を本学に誘い、学内の国際化を図る。</p> <p>広島県、日本私立大学協会、日本語学校等による留学フェアやサマースクール開催により一定数の短期留学生を確保しつつ、長期（正規）留学へつなげる方策を工夫する。</p> <p><b>【第3の戦略】</b> 教職員の国際化を支援する。</p> <p>グローバル化をテーマにしたFD・SDを行い、教職員の語学力養成と異文化理解促進を支援するとともに、国際学会・会議での発表を促進する仕組みをつくる。</p> <p><b>【第4の戦略】</b> 地域のインターナショナルスクールとの連携を促進するとともに、留学生や本学の学生及び外国人教職員の地域行事への参加などを通して、地域のグローバル化を支援する。</p> <p><b>【第5の戦略】</b> 国際平和都市広島にふさわしいグローバル人材としての就業力を学生につける仕組みをつくる。</p> <p>学生の英語等の外国語によるコミュニケーション能力、異文化理解力・異文化対応力を高めるくふうを行い、広島市の青少年未来平和会議などへの参画を促す。</p>	<p><b>ウ 留学生・短期研修生等、海外からの受け入れ数の増と受け入れ体制の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サマースクール フィリピンのセント・トマス大学受け入れプログラム 6/11～6/16, 教員5人・学生16人</li> <li>・留学生サポーター制度 前期4人, 後期6人を任命し, 留学生の支援を実施</li> <li>・留学生の就職活動ガイダンス 留学生の就職個人面談を日本人学生よりも早い時期(5/23)に実施。参加留学生4人。</li> <li>・留学生広島体験プログラム 広島国際ホームステイクラブと連携し, 9/1～9/3に国際ことば学院(静岡)の留学生2人がホームステイと本学オープンキャンパスに参加, 12/1～12/3(一部学生2日まで)に交換留学生(中国吉林華橋外国語学院)4人に対してホームステイを実施。</li> <li>・宿舎整備 「比治山大学交換留学生(受入)の住居取扱内規」を定め, 5月26日から施行。対象者数は, 前期1人, 後期3人。</li> <li>・ダブル・ディグリー制度 「日本・比治山大学と中国・吉林華橋外国語学院における編入学制度に関する覚書」を6月に締結。</li> <li>・国際交流アドバイザー 留学生の生活の悩みや日本語力向上を目的に前期は5/22～7/31(7/31を除く), 後期は10/16～1/29の毎週月曜日を実施。</li> <li>・英語版パンフレット作成。</li> <li>・留学生キャンパスツアー 6/4 11人, 7/9 6人, 9/3 13人の留学生が参加。</li> <li>・客員外国人研究員制度の運用を計画し, 協定校と協議。</li> </ul> <p><b>エ 教職員の国際化の支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学のグローバル化対応SD 9/25 参加者24人</li> <li>・「外国語での教授法を考える」(言語文化学科・総合生活デザイン学科共催 FD) 1/23 参加者9人</li> </ul> <p><b>オ 地域のグローバル化対応支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生等地域体験バスツアー 6/3 倉敷(参加者14人), 11/25 島根(参加者30人)で実施。</li> </ul>	
--	---	---	--

	<p>また、海外ボランティア（教学の項目再掲）や海外インターンシップの制度を確立する。これらの国際化戦略を確実に実施するために、国際交流センター（仮称）を設置する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸坂小学校と連携 4月から「小学校だより」英訳支援</li> <li>・国際交流センター主催講演会 12/20 クレアモント康子先生</li> </ul>	
14 海外研修プログラムの体系的整備	<p>新たな海外研修プログラムを開発するとともに、既存研修プログラムの内容・期間・コストなどを検討し、海外研修プログラムを体系的に整備する。</p> <p>比治山女子高等学校とグローバル化時代において自ら考えて行動し社会に貢献できる人材育成の仕組みを確立する。</p>	<p><b>ア 新たな海外研修プログラムの開発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台湾でのプログラム計画 3/14~3/15 銘傳大学と大葉大学を訪問。銘傳大学との交換留学の他に、教育研究の交流を協議。</li> <li>・アメリカ研修プログラム開発 8/14~8/28 にカリフォルニア大学デービス校、サクラメント州立大学、パロマカレッジ、カリフォルニア州立大学サンマルコス校を視察。 カリフォルニア州立大学サンマルコス校と留学に関する協定を1月に締結。</li> <li>・海外ボランティア研修 カンボジアパンニャサストラ大学と基本協定：2/18~2/27 研修実施(参加者3人)。</li> </ul>	
		<p><b>イ 高大接続教育連携プログラムの開発（比治山女子高校・大学）</b></p> <p>高大接続サマースクールの構想を高校側に提示。高校側の反応を見て、計画を練り直す必要がある。入試方法やカリキュラム案の見直しを検討中。</p>	
<b>5 基盤整備ビジョン</b>			
<b>（大学教育の質保証）</b>		＜総務室庶務担当，運営戦略本部，学長室＞	
15 事務組織体制の構築と人事考課制度の実効性確保	<p>急激な18才人口減へ備え、大学規模に応じた事務組織体制を徐々に構築するとともに、人事考課制度を昇進・昇給に反映する仕組みにしていく。</p>	<p><b>ア 授業の見直しと再編</b></p> <p>「戦略 22 管理体制の強化と機動的意思決定のための運営体制の構築」に併せて検討。</p>	
		<p><b>イ 職員・臨時職員の配置計画数立案</b></p> <p>「戦略 22 管理体制の強化と機動的意思決定のための運営体制の構築」に併せて検討。</p>	
		<p><b>ウ 人事考課制度の確立</b></p> <p>29年度人事考課結果をもとに室・課ごとの評価傾向を分析。 昇進・昇給への反映については引き続き課題を整理。</p>	

16 コンプライアンス, PDCAの実効性強化及びIR委員会機能の充実と確立	運営戦略本部会議のもとにある評価委員会を中心にコンプライアンス, PDACサイクルの実効性を強化する。 IR委員会の機能を充実させ, 検証, 課題発見のために恒常的組織としての見直しも図る。	<b>ア 認証評価結果, 監事監査(業務)意見の活用及び事業報告, 自己点検評価書, 予算の連携</b> 第3サイクル新基準準拠の点検項目の見直し。学生モニター会議実施方法の改善。中間評価の実施。3つのポリシー(DP・CP・AP)再定義。	
		<b>イ IR組織体制の充実</b> IR委員会・座談会の定例開催。分析ソフト他研修会参加。効果測定・予測モデル構築。	
		<b>ウ 組織の集約及び機能強化</b> 「戦略 22 管理体制の強化と機動的意思決定のための運営体制の構築」に併せて検討。	
		<b>エ コンプライアンスの確保</b> 教職員倫理綱領を制定(11/24)。	
17 収容定員確保のための教育組織の見直し。	現代文化学部の学科構成が社会ニーズとかい離していないか, 教育内容が魅力あるものか, 教員構成等も検討し, 学科再編, 学部昇格などを検討する。 また, 時宜にかなった新設学部の設置も検討する。	<b>ア(大学)学部改組計画</b> ・継続的に検討中。 ・教員選考細則制定及び教員定数の決定。	
		<b>イ(短大)学部改組計画</b> ・継続的に検討中。 ・教員選考細則制定及び教員定数の決定。	
<b>(施設整備・環境整備計画)</b>		＜総務室施設・研究・連携担当, 情報システム室＞	
18 教育内容等に対応した施設整備, 学生視点を重視したキャンパスや利便性の向上, 学生生活を支えるための施設整備の充実。	教育・研究機能の発展, 産学官連携の強化, 地域貢献・国際化の推進, 環境問題への配慮など高度化・多様化する教育内容等に対応した施設や, キャンパスの快適性や利便性の向上, 学生生活を支えるための施設の整備を充実させる。	<b>ア 【耐震対策事業】耐震対策未実施の校舎の耐震補強, 改築を行う。</b> ・1号館の耐震補強工事を完了。 ・未耐震建物である2号館, 3号館, 8号館の耐震計画の方向性を決定。	
		<b>イ 【キャンパス内施設・設備の再配置(最適化)】学生視点を重視したキャンパスの利便性の向上</b> ・8号館の機能移転について検討。平成30年度に4号館地階への機能移転工事を行うことを決定。 ・3号館の改築について検討, その準備工事として平成30年度に4号館1階及び1号館2階を改修, トレーニングルーム棟を新築することを決定。	

19 情報通信技術を活かした教育環境の整備, 情報セキュリティ確保, 機器更新, 情報センター組織の確立	<p>情報通信技術を活かした教育環境を整備する。</p> <p>情報セキュリティを確保するため各システムアカウント管理を厳格に実施する。</p> <p>老朽化による情報設備・機器の障害を防止するため計画的に更新する。</p> <p>各種システム及び機器の更新に当たっては社会的な情勢（BCPなど）を考慮した計画を立てる。</p> <p>情報教室及び情報基盤の集約を図り, 学部学科の枠を越えた情報センター組織を確立する。</p>	<p><b>ア 一般情報教室・CALL 教室機器整備</b></p> <p>CALL 教室の機器整備は, 情報基盤システムの整備を優先するため, 平成 30 年度に延期。</p>	
		<p><b>イ 特殊情報教室（カンファレンスルーム等）整備</b></p> <p>0437 教室のストリーミング設備の整備実施(幼稚園との接続を含む) (11月)</p>	
		<p><b>ウ 情報基盤システム整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基盤システムを更新。</li> <li>・サーバシステムをデータセンター移行。(エネウイング広島データセンター)</li> <li>・メールや個人用ドライブを含みクラウド(グーグル社 G Suite 教育版)に移行。(4～9月構築, 10月～3月検証)</li> </ul>	<p>AP 関係の整備を除く。</p> <p>平成 30 年度はネットワークスイッチの更新と無線 LAN システムを拡大。</p>
		<p><b>エ その他情報システム等整備</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 法人システム(Campus Plan)の更新を実施。(4～8月)</li> <li>2 学生支援システム(Gakuen, Hi!way, Hi!space)の更新を実施。(4～8月)</li> <li>3 AL 推進機能の充実(随時実施) <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)セミナーや授業の記録と公開 <p>AP 事業で整備された録画機材を用いビデオ収録し, 業務用ソフト(アドビ社 Premiere Pro)を用い編集後, 学内公開。(Hi!space のストリーム機能利用)</p> </li> <li>(2) 学生の自習環境の改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・資格試験用自習課題を EduTrack 内に配置整備し, 随時学習可能とした。</li> <li>・新システムの学科別共有ドライブや G ドライブにより学内外での課題管理機能を改善。</li> </ul> </li> <li>(3) タブレット型端末等によるインタラクティブな授業環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・iPad100 台中充電不良の修理, 及び OS 更新(一部のみ)を実施。</li> <li>・G Suite 教育版のアプリ導入により, アンケートやクリッカー機能, 及び授業管理機能を充実。</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol>	<p>3の(3)</p> <p>iPad は平成 30 年度も, 同様な不良修理や OS 更新, アプリの整備を継続する必要。</p> <p>各部署や学科と連携し, 平成 30 年度も新システムの普及充実を継続。</p>
(情報公開とアカウントセキュリティ)		<運営戦略本部, 学長室, 情報システム室>	
20 大学情報公開の活発化と広報戦略の確立	<p>大学ポータルにより他大学との比較も容易となり, 積極的な情報公開と大学ホームページの更新を活発</p>	<p><b>ア ホームページの管理・責任体制の整備及び情報発信の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報体制について検討し, 次年度にむけ体制を整備。</li> <li>・大学ポータルを継続的に更新。</li> </ul>	<p>広報指針に基づき平成 30 年度リニューアル予定。</p>

	化する。 広報のベースとなる広報戦略を構築する。	<b>イ 大学広報戦略（UI）の構築</b> ・UI「あしたをみがく。Nurture the Future.」の構築を完了。 ・ブランドブックのHP公開。 ・規程制定，パーツ集等の共有。	
<b>（財政基盤の安定と機動的意決定）</b>		＜総務室財務担当，運営戦略本部，学長室＞	
21 学納金収入確保と外部資金の積極的導入による大学経営基盤の安定	当面は，現在の学生数規模に基づく学納金収入の確保を目指していくが，外部資金についてもより積極的に申請・挑戦する。 予算執行状況を把握するため中間決算を行い，効率的な予算執行を行う。 事業の変更がある場合は速やかな予算補正等機動的な意思決定を行う。	<b>ア 補助金担当者の育成</b> ・補助金関係の情報収集に努め，補助金を獲得。 ・経常費補助金説明会へ7名参加（法人1・総務室3・情報1・学生支援1・キャリア1） ・科学研究費補助金説明会へ2名参加 ・私立大学等改革総合支援事業 補助金額 大学 17,000 千円 ・大学改革推進等(大学教育再生加速プログラム)補助金額 18,841 千円 ・私立学校施設整備費補助金 補助金額 71,891 千円 ・科学研究費補助金(研究関連収入) 大学 2,052 千円，短大 120 千円 採択件数 大学 14，短大 2（分担を含む）	採択件数 H27 8件 H26 4件 H28 15件
22 経営ガバナンスにおける大学，短期大学のマネジメント体制の確立と業務執行管理体制の強化と機動的意決定のための運営体制の構築。	理事会，経営戦略会議及び大学改革推進会議による経営ガバナンスにおける大学のマネジメント体制を確立し，大学においては業務執行管理体制の強化と機動的意決定のための運営体制の再構築を行う。	<b>ア 組織体制の見直し</b> 運営戦略本部会議の組織体制の見直しを実施（施行は平成30年度）。学長リーダーシップと学部長，短大部長による各組織管理運営体制を確立。	

## 2 平成29年度新規事業

項目	事業計画	実施状況	摘要
(1) 公認心理師養成課程の開設準備	平成29年9月の公認心理師法施行に伴い，社会臨床心理学科及び研究科臨床心理学専攻の教育課程を再編するとともに，教員採用や施設設備の整備を行う。	・公認心理師養成課程の開設に係る教育課程改正，教員採用，施設設備の整備を実施。 ・文部科学省及び厚生労働省あてに確認申請書を提出。	
(2) 教職課程再課程認定申請関連事業	平成30年3月に申請する教職課程再課程認定についての業務の調整を行	・ワーキンググループを発足し，検討を開始（6月）。 ・教職課程管理運営委員会開催，FDで全体へ説明・周知，運営戦略本部会議で検	

	う。	<p>討，各学科への説明等，学内での検討・周知を繰り返し，申請書原案を準備。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・カリキュラムを始めとした申請書原案を作成し，文部科学省へ事前相談（2/5）。</li><li>・平成31年度カリキュラム案を教学部会，執行部会で確認し，運営戦略本部会議に付議（3月）。</li><li>・申請書を文科省に提出（4/19）。</li></ul>	
--	----	---	--

(3) 比治山女子中学校・高等学校

ア 中学校・高等学校の使命（ミッション）

- 「親心に応じて悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」という「建学の精神」と「五訓」である「正直，勤勉，清潔，和合，感謝」を基礎に，知・徳・体を備え，知性・気品・慈愛に満ち溢れる心豊かな人間性を有する女性を育成する。
- 生涯にわたって，社会の変化に対応できる幅広い力を持ち，グローバル社会に貢献できるための生き方・在り方について自ら考え，判断し，行動することができる女性を育成する。

イ 中学校・高等学校の実現しようとする学校像

(ア) 教職員の協働・参画意識の高揚と職能成長

全領域においてミッションの実現に向かって，学校組織体として教職員が教育を実践するために協働及び参画意識の高揚と教職員としての職能成長を図る。

(イ) 今以上に選ばれ，信頼され，存在感ある学校

小・中学生とその保護者並びに教育機関（小・中学校，塾等）から今以上に選ばれ，信頼され，存在感ある学校とする。

□ 平成29年度の重点事業

- i 基礎学力の確実な定着と，それを基盤とした更なる学力の向上
- ii 志願者数，入学者数の確保
- iii 特色ある「比治山の女子教育」の推進
- iv 経営改革の取組

## (2) 事業概要

番号	事業計画	実施状況	摘要																														
i	<p><b>基礎学力の確実な定着と、それを基盤とした更なる学力の向上</b></p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中：基礎学力の確実な定着 ：伝統文化，自然体験を通してしなやかな感性，思いやりの心を育てる</li> <li>・高：全員の第一志望校合格 ：国公立大合格者 特進コース生徒数の60%，難関私大30名以上 ：高い英語力，グローバルな視点を磨き，身に着ける</li> </ul> <p>① 授業内容・方法の改善</p> <p>② 補習等の実施</p> <p>&lt;中学校&gt; 成績上位層を対象に，既習単元の応用力を養成</p> <p>&lt;高等学校&gt; 国公立，難関私大進学希望者等を対象に，応用力強化と受験対応力を養成</p>	<p>【平成 29 年度進路実績】（）内は既卒</p> <table border="0"> <tr><td>国立大学等</td><td>13(0)</td></tr> <tr><td>公立大学</td><td>17(0)</td></tr> <tr><td>私立大学</td><td>263(2)</td></tr> <tr><td>短大</td><td>14(0)</td></tr> <tr><td>専門学校</td><td>9(0)</td></tr> </table> <p>・基礎学力の定着，向上を図るため，中一，中二の数学，英語で少人数・習熟度別授業を実施</p> <p>・普通コースの教育課程の見直しを行った。</p> <p>・ICTを活用し教育内容，授業方法の改善を図るため，講義室，特別教室（8 教室）に固定式プロジェクター，ディスプレイ，書画カメラ等を整備した。</p> <p>&lt;中一&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季勉強会 5日間 国・数・英</li> <li>・春期勉強会 4日間 国・数・英</li> </ul> <p>&lt;中二&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季勉強会 5日間 国・数・英</li> <li>・春期勉強会 4日間 国・数・英</li> </ul> <p>&lt;中三&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季勉強会 5日間 国・数・英</li> </ul> <p>&lt;高1&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季補習（特進生＋希望者） 8日間 国・数・英</li> <li>・冬季補習（特進生） 2日間 国・数・英</li> <li>・春季補習（特進生＋希望者） 4日間 国・数・英</li> </ul> <p>&lt;高2&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季補習（特進生＋希望者） 7日間 国・数・英</li> </ul>	国立大学等	13(0)	公立大学	17(0)	私立大学	263(2)	短大	14(0)	専門学校	9(0)	<p>・国公立合格者数推移</p> <table border="0"> <tr><td></td><td>国立</td><td>公立</td><td>計</td></tr> <tr><td>H26</td><td>12</td><td>22</td><td>34</td></tr> <tr><td>H27</td><td>15</td><td>19</td><td>34</td></tr> <tr><td>H28</td><td>20</td><td>18</td><td>38</td></tr> <tr><td>H29</td><td>13</td><td>17</td><td>30</td></tr> </table>		国立	公立	計	H26	12	22	34	H27	15	19	34	H28	20	18	38	H29	13	17	30
国立大学等	13(0)																																
公立大学	17(0)																																
私立大学	263(2)																																
短大	14(0)																																
専門学校	9(0)																																
	国立	公立	計																														
H26	12	22	34																														
H27	15	19	34																														
H28	20	18	38																														
H29	13	17	30																														

	<p>③ 学習合宿の実施        &lt;目的&gt;        ・学力の向上        ・学習習慣の定着        ・学習意欲の喚起</p> <p>④ 教職員の指導力の向上</p> <p>⑥ 進路意識の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春季補習（特進生＋希望者）            4日間 国・数・英・社・理            ・代ゼミサテライン講座            放課後（6月～3月）</li> <li>&lt;高3&gt;            ・夏季補習（特進生）            15日間 国・数・英・社・理</li> <li>・冬季指定学習（センター試験受験者）            17日間 国・数・英・社・理</li> <li>・国公立二次試験対策            1/22～2/23，3/2～3/10            国・数・英・社・理・小論文</li> <li>・代ゼミサテライン講座            放課後（6月～3月）</li> <li>&lt;高2，高3&gt;            ・難関大特講（国，数，英）            成績優秀者を対象に，課業期間中の放課後，1時間程度の特別講義を継続して実施（6月～2月）</li> <li>&lt;高1特進&gt;            4/22～4/23，8/17～8/18（セミナーハウス）</li> <li>&lt;高1（全員）&gt;            10/18～20（シネツインしまなみビレッジ）</li> <li>&lt;高2特進&gt;            7/24～7/26 セミナーハウス）</li> <li>・教職員の研修受講状況            県内 延べ 116人（61講座）            県外 延べ 44人（28講座）</li> <li>・校内授業研究の実施            国語，社会，数学，理科，英語，保健体育，家庭・情報の7教科で実施し，協議・反省会を行った。</li> <li>・スタートアップセミナー            高1（9月），高2（5，11，12月），高3（4月）</li> <li>・キャリアスタディ～社会で活躍している卒業生の講演            中三，高2（6月）</li> <li>・進路講演会            高1，高2（7月）</li> <li>・職場体験（中二 10月）            ～5企業で実施</li> <li>・比治山大学他（11名）模擬授業            高1，高2（10月）</li> <li>・受験体験報告会（3月）</li> </ul>	<p>&lt;28年度&gt;        県内 69人（37講座）        県外 43人（37講座）</p>
--	---	---	---

	<p>⑦ 授業時数の確保</p> <p>⑧ 特進, 普通, 英語の3コースのカリキュラム見直し検討</p> <p>⑨その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模試の土日実施など, 様々な工夫の結果, 若干の改善が図られた。</li> <li>・教育研究部を中心に普通コースの教育課程の見直しを行った。</li> <li>・学力不振者に対する補充授業の実施 長期休業中(7, 8, 12, 3月)に実施</li> </ul>	
<p>ii</p>	<p><b>志願者数, 入学者数の確保</b> 【目標】 ＜中学校＞ ・推薦入試志願者数 70 名以上 ・入学者数 100 名以上 ＜高等学校＞ ・一般, 推薦合わせて 500 名以上</p> <p>ア 比治山ブランドを高める広報の充実</p> <p>① オープンスクールの開催 学校説明, 施設見学, クラブ体験等を通して, 比治山教育の理解を促す。</p> <p>② ひじやまセミナーの開催 比治山の教育を基礎に, 地域の活性化と社会貢献を図ることを目的に実施 (広島県, 広島市及び周辺市町の教育委員会の後援を得て実施)</p>	<p>【入学者数の状況】</p> <p>1 中学校 27 年度以降引き続き, 学力面, 生活面が一定レベル以上の生徒を合格させるという方針で臨んだ。 中学校推薦入試受験者数が, 今年も昨年とほぼ同じ数値で, 一昨年の約 2/3 に落ち込んだことから入学者数は 44 人となった。</p> <p>2 高等学校 30 年度入試ではスポーツ活動特別推薦制度により 23 人の生徒が入学した。29 年度より 2 名減となったが, こうした取組により, 他中学校からの入学者数は昨年を上回る 171 人となり, 校内進学者を加えた総入学者数は 228 人となった。</p> <p>【小学生対象】～2 回開催 ・5/20 (土) 45 名 (80 名) ・10/28 (土) 76 名 (80 名)</p> <p>【中学生対象】～2 回開催 ・7/8 (土) } 513 名 (429 名) 7/9 (日) } ・10/14 (土) 295 名 (310 名)</p> <p>【1 回開催 6/25 (日)】 ・クラブ紹介, 模擬授業等 9 教室 バレーボール, 卓球, 吹奏楽, 箏曲, パン製作, アナウンス, 合唱, 書道, 演劇 ・参加者 219 名 (245 名)</p>	<p>【入学者数の推移】 (中学校) (27) (28) (29) (30) 61 59 45 44 (高等学校) (27) (28) (29) (30) 比中 72 83 89 57 他中 164 147 156 171 計 236 230 245 228 (合計) (27) (28) (29) (30) 合計 297 289 290 272</p> <p>【推薦入試合格者数】 (中学校) (27) (28) (29) (30) 48 49 36 37 (高等学校) (27) (28) (29) (30) 特進 3 6 3 2 普通 25 25 53 52 英語 11 22 16 18 計 39 53 72 72</p> <p>※( )内は前年数値</p> <p>雨天のため屋外競技は中止</p>

	<p>③ 各種の広報活動</p> <p>イ 学校関係者等への広報の充実</p> <p>① 塾対象説明会の開催</p> <p>② 学校訪問</p> <p>③ 私学フェスタへの参加</p> <p>④ 在校生姉妹対象入試説明会の開催</p> <p>ウ 施設・設備の改修による学校の魅力アップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページに、新着情報をタイムリーに掲載</li> <li>・広島市中心部を走る路線バス（広電バス）に学校名をラッピングし広報媒体として活用</li> <li>・学校紹介用リーフレットの作成 中学校用，高等学校用の2分冊とし，比治山のイメージを統一するため，ホームページと共通性のあるデザインを採用</li> </ul> <p>9/27（水）説明会実施意 塾訪問：第1期 205 塾, 第2機 161 塾 第3期 36 塾</p> <p>通学可能な全中学校訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内，リーフレット等の配布</li> <li>・募集要項等の配布</li> <li>・事前相談の実施</li> </ul> <p>私学フェスタに参加し，クラブ発表や学校説明を実施</p> <p>小学校6年生，中学校3年生の姉妹を持つ在校生保護者に対し，個別に姉妹対象入学金減免制度の説明を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食堂リニューアル</li> <li>・照明のLED化（一部）</li> </ul>	ソフトテニス，テニス
iii	<p><b>特色ある「比治山の女子教育」の推進</b></p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化に対応した教育の充実</li> <li>・ICTを活用した教育内容の特色づくり</li> <li>・比治山の伝統を踏まえた規範意識の向上</li> </ul> <p>ア 海外との交流の活性化</p> <p>① 源花女子高等学校との交流促進</p>	<p>8月7日から8月10日までの4日間，源花女子高等学校生徒・教員を本校に受入れ，交流を行った。</p>	高校生 20 名 教員 3 名

	<p>② オーストラリア短期留学の継続実施</p> <p>③ 中学校夏期ホームステイの実施</p> <p>イ 中高大連携の推進</p> <p>ウ ICTを活用した授業方法の工夫・改善</p> <p>エ 規範意識の高上</p> <p>オ 地域との連携</p> <p>① 「ひじっ子みゆにていくりん」の実施</p> <p>② 地域との交流</p>	<p>高1 英語コース生徒が、1月26日から3月25日までの59日間オーストラリアへ短期留学実施。語学力を磨くとともに、異文化に触れ視野を広げた。</p> <p>中学2,3年生を7/28～8/10(14日間)ニュージーランド訪問・ホームステイ</p> <p>比治山女子高校と比治山大学が連携し、グローバルに活躍できる人材を育成するため、高大一貫教育(グローバルスタディー高大一貫コース)の具体化に向け協議を継続中。</p> <p>国の補助金を活用し、講義室、特別教室(8教室)に固定式プロジェクター、ディスプレイ、書画カメラ等を整備し、これらの機器を活用した具体的な授業づくりを教育研究部、情報推進部中止に取組に着手した。</p> <p>女子力アップ講座(中1～中3)、マナー講座(高1,2)を各年5回実施</p> <p>中学校生徒会を中心に、学校の周辺地域の清掃活動を行う「ひじっ子みゆにていくりん」を実施 実施回数 4回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黄金山フェスティバル, フラワーフェスティバル, 地元敬老会などの地域行事に参加し, 交流を図った。</li> <li>～バトン部, ギターマンドリン部, 吹奏楽部, 合唱部, 箏曲部</li> <li>・南区主催の安心安全なまちづくりフェスティバルに参加(演劇部)</li> <li>・体育祭, 文化祭, 吹奏楽部定期演奏会等に近隣住民を招待</li> </ul>	<p>30年度は, 中1～中3でコミュニケーション講座として実施</p>
iv	<p><b>経営改革の取組</b> 【目標】 平成33年度までに中高の財</p>		

	<p>政収支を均衡化</p> <p>① 支出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定員管理計画を策定し、計画に沿った定員管理を行う。</li> </ul> <p>② 収入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学納金等の引き上げを検討する。</li> <li>・寄付金の募集など、様々な収入増対策に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・策定に向け指標等を整理中</li> <li>・平成 29 年度から学年進行で授業料，入学金等を改定中。</li> </ul>	<p>&lt;アップ額&gt;</p> <p>入学金 20,000 円</p> <p>授業料 2,000 円</p> <p>施設整備費 500 円</p>
--	--	--	---

## (4) 【比治山大学短期大学部附属幼稚園】

## 《幼稚園の使命（ミッション）》

”命を大切に作る心””感動する心””しなやかな心”を柱として、「いきいき・のびのび・どきどき」をモットーに、基本的な生活習慣・態度を育て、豊かな心情や思考力を養い、意欲や思いやりのある子どもを育てることを使命とする。

## 《ビジョン》

- (1) 大学・短期大学部の附属幼稚園として、先進的な教育・研究を実践すると共に、学生の実習と多様な研究協力の場を提供している。
- (2) 子育て支援事業を充実させ、地域になくってはならない園へと発展している。
- (3) 安心・安全、自然環境豊かな幼児教育の場として相応しい環境づくりに努めている。
- (4) 定員確保に努め、財政の基盤を確立している。
- (5) 「子ども・子育て支援新制度」への対応方針について、地域の保育需要や施設整備の費用対効果を考慮しながら平成28年、29年度で検討している。

## ウ 事業概要

項目	事業計画	実施状況	摘要
<b>I 平成29年度事業の重点事業</b>			
<b>ビジョン1</b>			
例年重点目標を掲げての研究の実施	「人とのかかわりを深め、信頼感や思いやりの気持ちを育てる」ということを重点目標とし、年間を通して学年の目標（評価項目）を掲げて取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの結果 重点目標の達成状況についての保護者アンケート（回収率97.6%）において、12の質問項目の内、肯定的評価（とても思う・思う）が95%以上を占めた項目は、11項目となった。 中でも「幼稚園は、重点目標を通して様々な体験を重ね『いきいき、のびのび、どきどき豊かな育ちへ』と導いていると思いますか？」他2項目については、肯定的評価100%の高評価であった。</li> <li>・職員による自己評価 3学年の成果指標合計で、26項目中23項目が最高指標を達成した。</li> </ul>	
英語活動の継続	外部講師により、年中組と年長組を対象に計画的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託業者（ECC）よりネイティブの講師を招聘し、英語活動（英語あそび）を実施。 年中組 計3回（1月～3月） 年長組 計10回（4月～3月）</li> </ul>	
ことばの力を育てる教育の実践（絵本の読み聞かせ活動を通して）	各クラスにおいて毎日絵本の読み聞かせを行うとともに、地域ボランティア「おはなしポケット」による絵本の読み聞かせ活動を通して、より一層ことばに興味関心を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育中の絵本の読み聞かせを、ほぼ毎日実施。</li> <li>・図書室の本の貸し出し：年間26回 （保護者で結成された図書ボランティアが事務処理を担当）</li> <li>・「おはなしポケット」による読み聞かせ活動：年間16回</li> <li>・「ことばの力」を育てるため、図書カードに借りた絵本の感想と保護者のコメントも記入していただき家庭との連携も成果をあげた。（年中組・年長組対象）</li> </ul>	

自然体験活動を通して科学性の芽生えや、豊かな人間性を育てる教育の実践	身近にある植物の移り変わり、生き物の生態から、季節の変化を感じ、生物学的・科学的な興味・関心が子どもたちの心に湧き上がる。見て触れて匂いをかいで、味わって、五感を働かせながら「実体験」することが、今後の学びにつながる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いもの苗植え→育成→いもの収穫→やきいも会（流れる総合的活動）</li> <li>・その他の野菜の育成→収穫→食育（たまねぎ、じゃがいも、人参、きゅうり、なす、ミニトマトなど）</li> <li>・生き物の生態等への興味、関心を高める保育の実施。</li> <li>・ビオトープへの生き物の放流、観察会 メダカやどじょうのなど、水の中の生き物について詳しい清田先生と、土の中の生き物について詳しい葉名先生によるお話の実施。 (6/16・9/8)</li> </ul>	
<b>ビジョン2</b>			
未就園児クラス・預かり保育の充実（非常勤の措置）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝預かりと子育て支援担当の非常勤を1名配置</li> <li>・保育後の預かり保育の担当の非常勤を1名配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤を配置することで、社会のニーズに応じたより丁寧な子育て支援が実施できた。</li> <li>・通常の子育て支援事業と入園前の体験クラスの充実を図った。 「こりす組」（入園募集前の体験クラス） ㊸59組→㊸62組 「うさぎ組」（入園募集後の体験クラス） ㊸54組→㊸60組</li> </ul>	預かり保育利用者 ㊸3,631人 → ㊸4,186人
<b>ビジョン3</b>			
施設環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南園舎2階トイレの改修工事</li> <li>・南園舎の電気LED化</li> <li>・電話機増設工事（南園舎）2台</li> </ul>	いずれの環境整備も7月下旬～8月の夏休みに実施済み 教育環境としてより良い施設環境整備となった。	
「さくらの森」等、自然環境の整備	「さくらの森」と「ビオトープ」の維持管理を行い豊かな環境づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険な樹木を伐採。</li> <li>・大雨による土石流等の修繕完了</li> <li>・より子どもたちが活動しやすい豊かな環境づくりを実施。</li> </ul>	
ビオトープづくりと維持管理	委託業者による定期的な点検を実施する。	委託業者が維持管理に協力。	
障害児6名に対応する非常勤（加配）4名の措置	各学年に1人障害児担当非常勤を加配し、対象児が園生活を安心して過ごせるよう配慮する。	年少1名、年中2名、年長3名の対象児に対し、より安全で安心な園生活を送れるよう援助した。	非常勤（加配）4名の 人件費は、 県の補助対象
<b>ビジョン4</b>			
広報活動の充実とオープンキンダーガーデンの開催	未就園児親子来園の機会を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市・区への情報提供、ホームページのスピーディーな配信の実施。</li> <li>・「こりす組」（入園募集前の体験クラス）「うさぎ組」（入園募集後の体験クラス）の実施。</li> <li>・オープンキンダーガーデンの実施。 (7/29, 8/20)</li> </ul>	参加者 ㊸73→㊸88

ビジョン5			
「子ども・子育て支援新制度」への対応	「新制度に移行しない幼稚園」・「新制度に移行する幼稚園」・「新制度の認定こども園」のいずれを選択するか，地域の保育需要や施設整備の費用対効果を考慮して検討する。	<p>1月12日，広島市こども未来局保育指導課を訪ね，地域の保育需要や施設整備の必要性，今後の行政施策の動向を確認した。</p> <p>今後も，費用対効果や保護者の意向，附属幼稚園としての使命，将来的な経営見通し，社会情勢等，短期大学部とも連携し，附属幼稚園の方向性について様々な角度から検討を重ねていく。</p>	

## 2 入試（30年度入学）に関する状況

## (1) 比治山大学 現代文化学部

学 科 名	入学 定員	志 願 者 数			入 学 者 数		
		男子	女子	男子	女子		
言語文化学科	120	361	176	185	141	69	72
マスコミュニケーション学科	60	169	111	58	67	50	17
社会臨床心理学科	60	180	78	102	86	42	44
子ども発達教育学科	70	243	104	139	71	27	44
計	310	953	469	484	365	188	177

## (2) 比治山大学 健康栄養学部

学 科 名	入学 定員	志 願 者 数			入 学 者 数		
		男子	女子	男子	女子		
管理栄養学科	70	161	21	140	58	10	48
計	70	161	21	140	58	10	48

## (3) 比治山大学 現代文化学部 編入学

学 科 名	入学 定員	志 願 者 数			入 学 者 数		
		男子	女子	男子	女子		
言語文化学科	5	2	1	1	1	0	1
マスコミュニケーション学科	3	1	0	1	1	0	1
社会臨床心理学科	5	0	0	0	0	0	0
子ども発達教育学科	10	1	0	1	1	0	1
計	23	4	1	3	3	0	3

## (4) 比治山大学 健康栄養学部 編入学

学 科 名	入学 定員	志 願 者 数			入 学 者 数		
		男子	女子	男子	女子		
管理栄養学科	5	0	0	0	0	0	0
計	5	0	0	0	0	0	0

## (5) 比治山大学 専攻科

専 攻 科 名	入学 定員	志 願 者 数			入 学 者 数		
		男子	女子	男子	女子		
子ども発達教育専攻科	10	1	0	1	0	0	0
計	10	1	0	1	0	0	0

## (6) 比治山大学 大学院 現代文化研究科

研究科名等	入学 定員	志 願 者 数			入 学 者 数			
		男子	女子	男子	女子			
現代文化研究科	現代文化専攻	9	1	1	0	1	1	0
	臨床心理学専攻	5	10	6	4	8	5	3
計	14	11	7	4	9	6	3	

## (7) 比治山大学短期大学部

学 科 名	入学定員	志 願 者 数		入 学 者 数			
		男子	女子	男子	女子		
幼児教育科	100	99	3	96	84	3	81
総合生活デザイン学科	100	110	1	109	83	1	82
美術科	70	89	9	80	56	4	52
計	270	298	13	285	223	8	215

※H29年度から総合生活デザイン学科はコース制を廃止し系列とした。

## (8) 比治山大学短期大学部 専攻科

専 攻 名	入学定員	志 願 者 数		入 学 者 数			
		男子	女子	男子	女子		
美術専攻	15	21	2	19	21	2	19
計	15	21	2	19	21	2	19

## (9) 比治山女子高等学校

区 分	募集人員	応 募 人 数	入 学 者 数
高等学校 全日制普通科	217	456 (57)	228 (57)

※ ( ) 内は、併設中学からの数で内数。

## (10) 比治山女子中学校

区 分	募集人員	応 募 人 数	入 学 者 数
中学校	90	164	44

## (11) 比治山大学短期大学部附属幼稚園

区 分	入学定員	応 募 人 数		入 園 者 数			
		男子	女子	男子	女子		
幼稚園	70	76	41	35	71	39	32

## 3 就職・進学に関する状況

(1) 比治山大学（平成30年5月1日現在） (単位：人，%)

区 分	卒業生数 ①	就 職 希望者数 ②	内 定 者 数 ③		進学者数	内 定 率 ③/②
			ア	イ		
言語文化学科	106	83	81		2	97.6
			75	6		
マスコミュニケーション 学科	34	29	29		0	100.0
			29	0		
社会臨床心理学科	61	47	47		8	100.0
			47	0		
子ども発達教育学科	73	65	65		1	100.0
			55	10		
管理栄養学科	53	49	49		2	100.0
			48	1		
学部全体	327	273	271		13	99.3
			254	17		

(9月卒業生8人を含む)

ア：正規の職員

イ：雇用契約が1年以上かつフルタイム勤務者

求人申込件数 企 業 1, 310件  
幼稚園・保育所等 503件

(2) 比治山大学短期大学部（平成30年5月1日現在） (単位：人，%)

区 分	卒業生数 ①	就 職 希望者数 ②	内 定 者 数 ③		進学者数	内 定 率 ③/②
			ア	イ		
幼児教育科	105	100	99		1	99.0
			89	10		
総合生活デザイン学科	112	101	101		0	100.0
			98	3		
美術科	53	22	22		23	100.0
			22	0		
学部全体	270	223	222		24	99.6
			209	13		

(9月卒業生 0人を含む)

ア：正規の職員

イ：雇用契約が1年以上かつフルタイム勤務者

求人申込件数 企 業 1, 149件  
幼稚園・保育所等 537件

## (3) 比治山女子高等学校（平成30年4月1日現在）

		合格者数（既卒者含む）
大 学	国 立	1 2
	公 立	1 7
	私 立	2 6 5
	小 計	2 9 5
短 期 大 学	公 立	0
	私 立	1 4
	小 計	1 4
大 学 校		1
専 門 学 校		9
合 計		3 1 8

※ 平成30年3月卒業者数 224名

※ 合格者数は延べ人数

## 4 施設・設備の整備に関する状況

区 分	状 況
牛田キャンパス	1号館及び学外(エネウイング 広島データセンター) ・基盤システム更新(ネットワークスイッチを除く。) ・本学とデータセンター間の専用光回線設置 ・学生支援システム更新(JAST 社 Gakuen, UniversalPassport, EduTrack) ・財務システム更新(System D 社 Campus Plan, サーバーシステム含む) ・学内ネットワークスイッチ用免震ラック設置 1号館 耐震補強工事 明装・屋上防水工事 空調更新工事・照明 LED 化工事 5号館 2階改修(公認心理師設置に係る施設・設備整備) 工事
霞町キャンパス	体育館・講堂1階食堂改修工事 LAN配線工事 ICT教育機器(液晶プロジェクター等)整備 中学校机・椅子更新(中二)
からまつ学寮 (学外研修施設)	管理棟給湯器送水管破損修繕工事 宿泊棟1・2階トイレ修繕工事 宿泊棟2階防火戸自動閉鎖装置修繕工事 車路舗装工事

	宿泊棟玄関ポーチ補修工事 研修棟および宿泊棟放送設備配線修繕工事 グラウンド照明設備修繕工事 宿泊棟1階誘導灯バッテリー不良修繕工事 学寮運搬車修繕 手洗い場（研修棟裏）配管修理工事 松の木伐採（宿泊棟裏）
--	---

## Ⅲ 財務の概要

## 1 平成 29 年度決算の概要

## (1) 資金収支計算書

平成 29 年度の資金収支の状況は、当該年度の収入額が 37 億 8,902 万 4,742 円、これに、前年度より繰り越された 26 億 7,442 万 6,075 円を加えると収入の部合計は、64 億 6,345 万 817 円となった。

一方、支出額は、人件費、教育研究経費、管理経費、施設関係、設備関係、資産運用、その他の支出を合わせると 36 億 9,392 万 196 円であったので、差引 27 億 6,953 万 621 円が翌年度の繰越支払資金となり、昨年度より 9,510 万 4,546 円増加した。これは、支出における人件費支出や教育研究経費支出、施設関係支出などが増加したものの、収入における学生生徒等納付金収入や雑収入、借入金等収入などの増加が上回ったことによるものである。

(単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	決算	科目	決算
学生生徒等納付金収入	2,594,322,550	人件費支出	2,401,856,542
手数料収入	51,966,310	教育研究経費支出	709,340,066
入学検定料収入	46,990,000	管理経費支出	188,740,502
寄付金収入	2,785,957	借入金等利息支出	196,650
補助金収入	755,191,449	施設関係支出	281,373,838
国庫補助金収入	364,530,000	設備関係支出	108,989,108
地方公共団体補助金収入	390,661,449	資産運用支出	290,569,780
付随事業・収益事業収入	12,068,692	その他の支出	44,425,969
受取利息・配当金収入	26,014,679	〔予備費〕	
雑収入	185,636,651	資金支出調整勘定	△ 331,572,259
借入金等収入	174,500,000	翌年度繰越支払資金	2,769,530,621
前受金収入	525,136,000	<b>支出の部合計</b>	<b>6,463,450,817</b>
その他の収入	246,787,602		
資金収入調整勘定	△ 785,385,148		
前年度繰越支払資金	2,674,426,075		
<b>収入の部合計</b>	<b>6,463,450,817</b>		

## ●活動区分資金収支計算書

(単位:円)

	科目		金額		科目		金額
	収入	支出			収入	支出	
教育活動による資金収支	学生生徒等納付金収入		2,594,322,550	その他の活動による資金収支	借入金等収入		174,500,000
	手数料収入		51,966,310		退職給与引当特定資産取崩収入		118,985,740
	特別寄付金収入		2,735,369		小計		293,485,740
	一般寄付金収入		50,588		受取利息・配当金収入		26,014,679
	経常費補助金収入		677,671,449		<b>その他の活動資金収入計</b>		<b>319,500,419</b>
	付随事業収入		12,068,692		借入金等返済支出		0
	雑収入		185,636,651		保険料等積立金支出		43,860
	<b>教育活動資金収入計</b>		<b>3,524,451,609</b>		退職給与引当特定資産繰入支出		20,559,345
	人件費支出		2,401,856,542		敷金支出		117,000
	教育研究経費支出		709,340,066		出資金支出		20,400
	管理経費支出		188,740,502		預り金支払支出		3,811,789
	<b>教育活動資金支出計</b>		<b>3,299,937,110</b>		小計		24,552,394
	差引		224,514,499		借入金等利息支出		196,650
調整勘定等		132,001,709	<b>その他の活動資金支出計</b>		<b>24,749,044</b>		
教育活動資金収支差額 ①		356,516,208	差引		294,751,375		
施設整備等活動による資金収支	施設設備補助金収入		77,520,000	調整勘定等		△ 26,000	
	教育施設設備特定資産取崩収入		29,913,840	その他の活動資金収支差額 ③		294,725,375	
	減価償却引当特定資産取崩収入		0	支払資金の増減額(小計+③)		95,104,546	
	<b>施設整備等活動資金収入計</b>		<b>107,433,840</b>	前年度繰越支払資金		2,674,426,075	
	施設関係支出		281,373,838	翌年度繰越支払資金		2,769,530,621	
	設備関係支出		108,989,108				
	第2号基本金引当特定資産繰入支出		232,000,000				
	教育施設設備特定資産繰入支出		32,723,319				
	減価償却引当特定資産繰入支出		5,105,856				
	<b>施設整備等活動資金支出計</b>		<b>660,192,121</b>				
	差引		△ 552,758,281				
	調整勘定等		△ 3,378,756				
	施設整備等活動資金収支差額 ②		△ 556,137,037				
小計(①+②)		△ 199,620,829					

## (2) 事業活動収支計算書

平成29年度の事業活動収支決算のうち、教育活動収支の概要について予算との対比で説明すると、収入については、手数料、経常費等補助金を除く、学生生徒等納付金、寄付金、付随事業収入、雑収入の科目において予算額を上回った。

学生生徒等納付金については、25億9,432万2,550円、経常費等補助金は6億7,767万1,449円となった。これらの結果、教育活動収入額は、予算を2,913万7,056円下回り、35億2,449万5,944円となった。

一方、支出については、人件費は予算額を上回ったが、教育研究経費、管理経費などは予算額を下回り、その結果、教育活動収支における教育活動支出額は、35億4,266万8,563円となった。

この結果、教育活動収支差額は△1,817万2,619円となり、その他の、教育活動外収支差額及び特別収支差額を合わせて、基本金組入前当年度収支差額は、8,298万4,076円となった。

また、基本金への組入額は、4億4,928万6,170円となっている。この内訳は、牛田キャンパス1号館の耐震補強工事などによる第1号基本金組入額が2億1,728万6,170円、短大新棟I建築に係る第2号基本金組入額が、2億3,200万円となっている。

基本金組入後の当年度収支差額は、△3億6,630万2,094円で、これに、前年度の繰越収支差額と基本金取崩額を合算した翌年度繰越収支差額は△28億9,690万3,749円となった。

(単位:円)

		科目	決算			科目	決算	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,594,322,550	特別収入	資産売却差額	0		
		手数料	51,966,310		その他の特別収入	80,208,856		
		入学検定料	46,990,000		施設設備補助金	77,520,000		
		寄付金	2,830,292		特別収入計	80,208,856		
		経常費等補助金	677,671,449		事業活動支出の部	資産処分差額	4,870,190	
		国庫補助金	287,010,000			その他の特別支出	0	
		地方公共団体補助金	390,661,449			特別支出計	4,870,190	
		付随事業収入	12,068,692		特別収支差額		75,338,666	
		雑収入	185,636,651		〔予備費〕		0	
		教育活動収入計	3,524,495,944		基本金組入前当年度収支差額	82,984,076		
	事業活動支出の部	人件費	2,295,570,796	基本金組入額合計	△449,286,170			
		退職給与引当金繰入額	153,756,331	当年度収支差額	△366,302,094			
		教育研究経費	1,045,316,430	前年度繰越収支差額	△2,530,601,655			
		減価償却額	335,932,029	基本金取崩額	0			
		管理経費	201,781,337	翌年度繰越収支差額	△2,896,903,749			
		減価償却額	13,040,835	(参考)				
		徴収不能額等	0	事業活動収入計	3,630,719,479			
		教育活動支出計	3,542,668,563	事業活動支出計	3,547,735,403			
	教育活動収支差額		△18,172,619					
教育活動外収支	収入の活動の部	受取利息・配当金	26,014,679					
		その他の教育活動外収入	0					
		教育活動外収入計	26,014,679					
	支出の活動の部	借入金等利息	196,650					
		その他の教育活動外支出	0					
教育活動外支出計	196,650							
教育活動外収支差額		25,818,029						
経常収支差額		7,645,410						

## (3) 貸借対照表

学園の財政状態を貸借対照表によって説明すると、平成29年度末現在の資産の総額は、153億5,243万5,711円となった。その内訳は、有形固定資産87億1,746万2,422円、特定資産32億8,882万7,315円、その他の固定資産3億4,124万735円及び流動資産30億490万5,239円(内 未収金2億2,647万4,201円)である。

他方、負債の総額は、退職給与引当金、前受金など固定負債及び流動負債を合計して23億5,970万5,571円、基本金は、校地、校舎、機器備品、図書など教育研究に必要な資産の自己調達額を示す第1号基本金が140億973万3,889円、将来固定資産の取得に充てる第2号基本金が16億5,990万円、学校を恒常的に維持するための資金を示す第4号基本金が2億2,000万円となっている。

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科 目	29年度末	科 目	29年度末
固定資産	12,347,530,472	固定負債	1,470,861,916
有形固定資産	8,717,462,422	長期借入金	174,500,000
土地	2,178,998,945	退職給与引当金	1,296,361,916
建物	4,957,547,773		
構築物	264,039,565	流動負債	888,843,655
教育研究用機器備品	367,390,667	未払金	328,219,842
管理用機器備品	37,240,402	前受金	525,136,000
図書	907,493,070	預り金	35,487,813
建設仮勘定	4,752,000		
		負債の部合計	2,359,705,571
特定資産	3,288,827,315	純資産の部	
第2号基本金引当特定資産	1,659,900,000	科 目	29年度末
退職給与引当特定資産	433,680,403	基本金	15,889,633,889
減価償却引当特定資産	787,917,099	第1号基本金	14,009,733,889
教育施設設備特定資産	407,329,813	第2号基本金	1,659,900,000
		第4号基本金	220,000,000
その他の固定資産	341,240,735	繰越収支差額	△ 2,896,903,749
電話加入権	1,521,336	翌年度繰越収支差額	△ 2,896,903,749
敷金	117,000		
出資金	623,400	純資産の部合計	12,992,730,140
保証金	100,000		
保険料等積立金	338,878,999	負債及び純資産の部合計	15,352,435,711
流動資産	3,004,905,239	(注記)	
現金預金	2,769,530,621	減価償却額の合計額	5,346,050,131
未収金	226,474,201		
前払金	8,900,417		
資産の部合計	15,352,435,711		

## 2 財務状況の経年比較

## (1) 資金収支計算書の推移（平成25年度～平成29年度）

(単位:千円)

科 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
学生生徒等納付金収入	2,345,989	2,399,662	2,438,386	2,506,715	2,594,322
手数料収入	55,367	59,652	55,037	57,649	51,966
入学検定料収入	50,633	54,580	49,843	52,759	46,990
寄付金収入	2,827	5,659	4,356	3,672	2,785
補助金収入	662,627	674,481	720,214	765,417	755,191
国庫補助金収入	283,439	278,241	326,363	389,060	364,530
地方公共団体補助金収入	379,188	396,240	393,851	376,357	390,661
資産売却収入	100,000	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	8,325	8,319	12,232	9,567	12,068
受取利息・配当金収入	31,447	26,100	28,973	29,518	26,014
雑収入	75,122	178,060	166,766	50,646	185,636
借入金等収入					174,500
前受金収入	559,529	567,313	568,214	559,474	525,136
その他の収入	1,033,917	235,909	256,418	134,260	246,787
資金収入調整勘定	△ 632,934	△ 643,319	△ 608,570	△ 666,111	△ 785,385
前年度繰越支払資金	4,057,084	3,264,035	3,192,170	3,274,106	2,674,426
収入の部合計	8,299,300	6,775,870	6,834,196	6,724,913	6,463,450
人件費支出	2,065,342	2,292,714	2,276,183	2,120,160	2,401,856
教育研究経費支出	465,845	517,368	487,581	593,331	709,340
管理経費支出	207,229	180,381	162,241	199,843	188,740
借入金等利息支出					196
施設関係支出	1,158,345	14,550	54,473	216,735	281,373
設備関係支出	177,119	86,453	62,222	94,145	108,989
資産運用支出	473,598	488,329	507,916	814,044	290,569
その他の支出	527,004	39,216	49,243	54,000	44,425
〔予備費〕			0		
資金支出調整勘定	△ 39,216	△ 35,311	△ 39,769	△ 41,771	△ 331,572
翌年度繰越支払資金	3,264,035	3,192,170	3,274,106	2,674,426	2,769,530
支出の部合計	8,299,300	6,775,870	6,834,196	6,724,913	6,463,450

※平成25年度～平成26年度については、新会計基準の各科目に読み替えて作成しています。

※計算書類の各科目を四捨五入しています。(合計欄についても計算書類上の合計値を四捨五入しています。)

## (2) 事業活動収支計算書の推移（平成25年度～平成29年度）

(単位:千円)

科 目		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,345,989	2,399,662	2,438,386	2,506,715	2,594,322
		手数料	55,367	59,652	55,037	57,649	51,966
		入学検定料	50,633	54,580	49,843	52,759	46,990
		寄付金	2,827	5,659	4,356	8,148	2,830
		経常費等補助金	630,813	673,758	709,173	691,037	677,671
		国庫補助金	251,625	277,723	315,322	314,680	287,010
		地方公共団体補助金	379,188	396,035	393,851	376,357	390,661
		付随事業収入	8,325	8,319	12,232	9,567	12,068
		雑収入	75,122	178,060	166,766	50,646	185,636
		教育活動収入計	3,118,442	3,325,110	3,385,951	3,323,761	3,524,495
	事業活動支出の部	人件費	2,053,768	2,199,670	2,158,003	2,115,877	2,295,570
		退職給与引当金繰入額	74,910	101,501	44,710	31,365	153,756
		教育研究経費	749,726	845,488	814,882	912,948	1,045,316
		減価償却額	283,881	328,120	327,301	319,617	335,932
		管理経費	219,627	193,967	177,163	212,243	201,781
		減価償却額	12,398	13,585	14,922	12,400	13,040
		徴収不能額等	4,694	4,731	3,960	0	0
		教育活動支出計	3,027,815	3,243,856	3,154,008	3,241,068	3,542,668
	教育活動収支差額	90,627	81,254	231,943	82,693	△ 18,172	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	31,447	26,100	28,973	29,518	26,014
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	31,447	26,100	28,973	29,518	26,014
	支出の部	借入金等利息	0	0	0	0	196
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	196
教育活動外収支差額	31,447	26,100	28,973	29,518	25,818		
経常収支差額	122,074	107,353	260,916	112,211	7,645		
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	41,657	12,652	20,914	74,542	80,208
		施設設備補助金	31,814	723	11,041	74,380	77,520
	特別収入計	41,657	12,652	20,914	74,542	80,208	
	支出の部	資産処分差額	20,073	3,400	3,775	2,999	4,870
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	20,073	3,400	3,775	2,999	4,870
特別収支差額	21,585	9,252	17,140	71,543	75,338		
〔予備費〕				0	0	0	
基本金組入前当年度収支差額		143,659	116,605	278,055	183,754	82,984	
基本金組入額合計		△ 782,726	△ 238,450	△ 397,679	△ 640,093	△ 449,286	
当年度収支差額		△ 639,067	△ 121,844	△ 119,624	△ 456,340	△ 366,302	
前年度繰越収支差額		△ 1,200,991	△ 1,840,058	△ 1,961,903	△ 2,081,526	△ 2,530,601	
基本金取崩額		0	0	0	7,264	0	
翌年度繰越収支差額		△ 1,840,058	△ 1,961,903	△ 2,081,526	△ 2,530,602	△ 2,896,903	
(参考)							
事業活動収入計		3,191,546	3,363,861	3,435,838	3,427,821	3,630,719	
事業活動支出計		3,047,888	3,247,256	3,157,783	3,244,068	3,547,735	

※平成25年度～平成26年度については、新会計基準の各科目に読み替えて作成しています。

※計算書類の各科目を四捨五入しています。(合計欄についても計算書類上の合計値を四捨五入しています。)

## (3) 貸借対照表の推移 (平成25年度～平成29年度)

(単位:千円)

資産の部					
科 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
固定資産	11,236,968	11,357,791	11,468,378	12,166,652	12,347,530
有形固定資産	9,146,562	8,915,786	8,697,753	8,678,254	8,717,462
土地	2,178,999	2,178,999	2,178,999	2,178,999	2,178,998
建物	5,282,480	5,074,191	4,907,630	4,906,412	4,957,547
構築物	345,471	327,325	307,764	287,294	264,039
教育研究用機器備品	451,600	423,528	370,918	366,254	367,390
管理用機器備品	24,389	29,706	32,969	32,948	37,240
図書	863,624	878,581	893,425	901,809	907,493
車両					
建設仮勘定		3,456	6,048	4,536	4,752
特定資産	2,085,536	2,438,518	2,768,518	3,147,338	3,288,827
第2号基本金引当特定資産	865,176	1,082,300	1,035,900	1,427,900	1,659,900
退職給与引当特定資産	741,258	642,199	532,418	532,107	433,680
減価償却引当特定資産	479,102	714,019	772,993	782,811	787,917
教育施設設備特定資産			427,207	404,520	407,329
その他の固定資産	4,870	3,488	2,107	2,224	341,240
電話加入権	1,521	1,521	1,521	1,521	1,521
ソフトウェア	2,793	1,396	0	0	0
敷金					117
出資金	556	570	586	603	623
保証金				100	100
保険料等積立金				338,835	338,878
流動資産	3,348,766	3,271,934	3,317,277	2,785,130	3,004,905
現金預金	3,264,035	3,192,170	3,274,106	2,674,426	2,769,530
未収金	84,731	79,764	38,543	98,452	226,474
有価証券	0	0	0	0	0
前払金			4,627	12,253	8,900,417
資産の部合計	14,585,734	14,629,725	14,785,655	14,951,782	15,352,435
負債の部					
科 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
固定負債	1,618,154	1,525,111	1,406,931	1,402,648	1,470,861
長期借入金					174,500
退職給与引当金	1,618,154	1,525,111	1,406,931	1,402,648	1,296,361
流動負債	636,248	656,677	652,732	639,388	888,843
未払金	39,216	35,311	39,736	40,614	328,219
前受金	559,529	567,313	568,214	559,474	525,136
預り金	37,502	54,053	44,781	39,300	35,487
負債の部合計	2,254,402	2,181,788	2,059,663	2,042,036	2,359,705
純資産の部					
科 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
基本金	14,171,390	14,409,840	14,807,519	15,440,348	15,889,633
第1号基本金	13,480,126	13,521,576	13,544,354	13,792,448	14,009,733
第2号基本金	464,000	661,000	1,035,900	1,427,900	1,659,900
第4号基本金	227,264	227,264	227,264	220,000	220,000
繰越収支差額	△ 1,840,058	△ 1,961,903	△ 2,081,526	△ 2,530,602	△ 2,896,903
翌年度繰越収支差額	△ 1,840,058	△ 1,961,903	△ 2,081,526	△ 2,530,602	△ 2,896,903
純資産の部合計	12,331,332	12,447,937	12,725,993	12,909,746	12,922,730
負債及び純資産の部合計	14,585,734	14,629,725	14,785,656	14,951,782	15,352,435
減価償却額の累計額の合計額	4,328,167	4,602,872	4,845,080	5,112,673	5,346,050

※平成25年度～平成26年度については、新会計基準の各科目に読み替えて作成しています。

※計算書類の各科目を四捨五入しています。(合計欄についても計算書類上の合計値を四捨五入しています。)

## (4) 財務比率の推移（平成25年度～平成29年度）

## ◇ 事業活動収支計算書関係比率（新基準）

（単位：％）

	比率名	算出方法	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	評価基準
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	65.2	65.6	63.2	63.1	64.7	▼
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	87.5	91.7	88.5	84.4	88.5	▼
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	23.8	25.2	23.9	27.2	29.4	△
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	7.0	5.8	5.2	6.3	5.7	▼
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▼
6	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	4.5	3.5	8.1	5.4	2.3	△
7	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	76.7	90.1	82.4	79.7	87.0	▼
8	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	74.5	71.6	71.4	74.8	73.1	～
9	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	△
	経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	△
10	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	20.8	20.1	21.0	22.3	20.8	△
	経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	20.0	20.1	20.8	20.6	19.1	△
11	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	-24.5	-7.1	-11.6	-18.7	-12.4	△
12	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	9.8	10.5	10.9	10.2	9.9	～
13	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	3.9	3.2	7.6	3.3	0.2	△
14	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	2.9	2.4	6.9	2.5	-0.5	△

※平成25年度から平成26年度については、新会計基準に読み替えて作成しています。

※評価基準は、『今日の私学財政』（日本私立学校振興・共済事業団）による。

△ 高い値がよい

▼ 低い値がよい

～ どちらともいえない

## ◇ 活動区分資金収支計算書関係比率（新基準）

（単位：％）

	比率名	算出方法	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	評価基準
1	教育活動資金収支比率	$\frac{\text{教育活動資金支出計}}{\text{教育活動資金収入計}}$	87.8	89.9	86.4	87.8	93.6	
2	教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	3.0	10.2	15.0	12.2	10.1	
3	フリーキャッシュフロー比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額} + \text{施設整備等活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	-20.9	0.6	-1.4	-8.6	-5.7	

※平成25年度から平成26年度については、新会計基準に読み替えて作成しています。

## ◇ 貸借対照表関係比率（新基準）

（単位：％）

	比率名	算出方法	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	評価基準
1	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	77.0	77.6	77.6	81.4	80.4	▼
2	有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	62.7	60.9	58.8	58.0	56.8	▼
3	特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	14.3	16.7	18.7	21.0	21.4	△
4	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	23.0	22.4	22.4	18.6	19.6	△
5	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債+純資産}}$	11.1	10.4	9.5	9.4	9.6	▼
6	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債+純資産}}$	4.4	4.5	4.4	4.3	5.8	▼
7	内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{総負債}}{\text{総資産}}$	21.2	23.6	26.9	25.3	24.1	△
8	運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{事業活動支出}}$	122.4	126.4	146.8	136.2	129.3	△
9	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債+純資産}}$	84.5	85.1	86.1	86.3	84.6	△
10	繰越収支差額 構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債+純資産}}$	-12.6	-13.4	-14.1	-16.9	-18.9	△
11	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	91.1	91.2	90.1	94.2	95.0	▼
12	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産+固定負債}}$	80.6	81.3	81.1	85.0	85.4	▼
13	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	526.3	498.3	508.2	435.6	338.1	△
14	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	15.5	14.9	13.9	13.7	15.4	▼
15	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	18.3	17.5	16.2	15.8	18.2	▼
16	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	583.4	562.7	576.2	478.0	527.4	△
17	退職給与引当特定資産 保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	45.8	42.1	37.8	37.9	33.5	△
18	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	△
19	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額(図書を除く)}}{\text{減価償却資産取得価額(図書を除く)}}$	41.5	44.0	46.3	47.8	48.7	～
20	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	83.5	82.9	82.9	73.3	73.0	△

運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券

要積立額＝減価償却額の累計額＋退職給与引当金＋第2号基本金＋第3号基本金

※平成25年度から平成26年度については、新会計基準に読み替えて作成しています。

※評価基準は、『今日の私学財政』（日本私立学校振興・共済事業団）による。

△ 高い値がよい

▼ 低い値がよい

～ どちらともいえない

## 3 寄付金の状況

(単位：円)

種 類 \ 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
※特別寄付金 (教育施設等整備資金)	2,827,000	2,659,000	4,356,000	2,646,100	2,735,369
一般寄付金	0	3,000,000	0	1,026,268	50,588
現物寄付金	9,843,198	11,928,890	9,873,415	4,475,479	2,515,407
合 計	12,670,198	17,587,890	14,229,415	8,147,847	5,301,364

※ 特別寄付金は一般資金と区分し、学園の教育施設設備特定資産に積み立て管理しています。

※ 本学園は、文部科学省から寄付金募集について「特定公益増進法人であることの証明書」及び「税額控除に係る証明書」の交付を受けており、本学園に対する寄付金は、税制上の優遇措置を受けることができます。